

2011年度事業報告

2011年度において本会は、東日本大震災における緊急・復興支援、アジアにおける開発支援、人材育成、及び公益社団法人認定を目指して組織改革などの多くの課題を解決しなければならない年であった。

東日本大震災においては、初期の緊急時における炊き出し、物資配布、子どものケアなどに多くの資金及び人材を投入した。その後も仮設住居入居時における生活スターターキットの配布、現地情報誌「桜通信」の発行などは、長年の海外支援において築いたノウハウなどを生かし、現地の風習、文化に対応した活動を現地事務所の立ち上げを通して実施し、現在の現地産物を加工販売する復興支援へ繋げることができた。

海外における開発支援事業においては、基本的な水、教育、環境及び自立支援などの通常の事業を継続して実施した。東日本大震災の影響により、海外事業のための資金源の減少はあったが、現地の自助努力や助成金などもあり、計画した事業において、すべて実施することができた。国内の経済が疲弊化していく中で、多くの支援を得ることができたが、寄付・募金、助成金以外の新たな資金源の確保と現地の自助努力の強化という課題が出てきた。

人材育成においては、第一回アジア・ユースサミットにおいて活躍した第一期生が東日本大震災へのチャリティコンサートの主催、街頭募金などの自主的に実施するなどの本会の活動に大きく貢献してくれた。また、第二回アジア・ユースサミットにおいても中心で動くなど活躍が見られた。その一方で、和歌山県を襲った台風12号においては、「土と水と緑の学校」にて活躍しているリーダーたちが中心となり支援部隊を新宮市に送り、様々な支援活動を行った。何事においても実践できる人材を育てるために行った事業から出てきた若者たちが現地で活躍してくれたことは、人材育成を行ってきた本会の成果といえる。それと同時に青少年たちの成長を側面的にサポートしてくれた本会の大人の会員やボランティアにも本当に感謝をしたいと思う。2011年度の活動の詳細は以下のとおりである。

・開発支援事業

2011年度の本会の開発支援事業は、基本である貧困層の自立を目的とした、「水」、「子ども」、「貧困対策」、「環境」及び「関連事業」を中心に実施された。

A. 『水事業』 井戸飲料水供給

1. 井戸・飲料水供給

本年度はアジア6カ国（カンボジア、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ラオス（インド、ミャンマーは建設中のみで本年度の完成はなし））の農村地域49ヶ所に飲料水のための井戸及びパイプライン65基を完成させ、安全な飲料水を含む、生活用水を確保することができた。本事業において抱えている課題は二点あり、まず地下水の低下により、掘削が以前よりもさらに難しくなっている。インドにおいては、毎年100m以上掘削しているが、更に深く掘削しても水脈にあたらぬなど、平均的に130m以上掘削の井戸が増えてきている。今後も干ばつのような自然災害も予測されるわけであり、様々な方法においての水の確保を見つけないといけない。

このような状況の中でも本会の現地提携団体は、村の人たちをうまくまとめ、水管理組合などを形成しながら井戸建設を実施しており、今後の活躍及び自立に向けての活動に期待したい。

B. 『子ども事業』 一貧困層の子どもたちの生活向上を目指した各種支援事業—

アジア各地の貧困層の子どもたちへの支援事業として、「初等教育普及・向上事業」、「HIV/AIDS 感染症子ども支援事業」、及び、「栄養改善、ストリートチルドレン保護などの事業」を行った。

1. 初等教育普及・向上事業

経済的貧困のために、教育の恩恵を受けることが出来ない子どもたちへ、初等教育の機会を得るための支援事業を行った。教育里親制度（教育資金の提供）を通じて2011年度はアジア5ヶ国（インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン）の児童333名の教育支援を行なった

インドにて運営支援を行っている日印友好学園コスモニケタン及びパダトラ小学校に関しては、教師の平均給与が長年、公立学校の給与よりも低く、教師のモチベーション維持に問題を抱えてきた。また、国内の物価も経済成長のために上昇し続けているために殆どの教師は、副業を持たざるを得なく、教育内容の強化が非常に難しい。本年度は給与を少し上げてモチベーションの維持を試みた。今後は先生たちの研修などを更に強化しながら、充実した教育内容を計らなければならない。

2. 教育設備・環境整備

2011 年度、本会は学校校舎の建設、増築、修繕などは行っていないが、インドの日印友好学園コスモニケタンの老朽化した机、イス 53 セットを総入れ替えした。また、ネパールにおいては、図書室建設を仕上げ、教育環境をより充実化させた。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

前年度に引き続き、現地提携団体の要請により南インド・タミルナードゥ州ディンディガル・ナマカル地区の HIV 感染症の子ども及びその家族(条件として平均 3~5 人/世帯 収入 50 円以下)、10 家族を対象とする生活支援活動を実施し、HIV/AIDS にかかる医療費、栄養食の適宜の配布、HIV/AIDS 予防のための啓発教育などの支援が行われた。現況においても同地区における HIV/AIDS の感染率はわずかながらではあるが、減少傾向にあるが、未だに多くの世帯が両親、または両親・子どもともども感染しており、今後も目が離せない状況にある。しかし、NGO だけでは力不足であり、学校をドロップアウトして、出稼ぎなどをする世代の若者への収入向上の援助とともに HIV/AIDS に対する啓発を同時進行で行わなければ、この問題の終息はないと考える。

4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育環境整備

(1) 栄養改善(ネパール)

中南部チトワン地区ピトゥリ村で本年度も継続実施した。昨年度より政府から給食支援が実施されるようになり、小学 1 年生より 5 年生の子ども達へは毎日 1 品の食べ物が給食として支給されるようになった。しかし栄養的なフォローがされないために継続してたんぱく質補給のための卵と牛乳の給食支援と就学前クラスの子どもの給食支援を継続して実施。また、毎年ネパールにて行っている学校の生徒対象の環境セミナーの際にも栄養に関する知識習得のための啓発活動を 5 校約 200 人の生徒に行った。

(2) ストリートチルドレンの保護(フィリピン)

元ストリートチルドレンの子どもたちが、路上での生活から開放され、様々な教育プログラムを受ける機会ができた。子どもたちの健全な成長につながっている。学校の授業に立ち遅れてしまう子どもたちには補助的な教育指導も行った。また、環境教育のキャンプやユースリーダートレーニングのプログラム、家庭環境からくる精神的な不安に対するケアも実施。

特に、リーダーシップトレーニングは、15 歳以上の若者を各地から集め、リーダーシップに関する一貫したトレーニングを行い、そこで認証を受けたリーダーが各自の村に戻りさらに年下の小学・高校生に伝えていく方法をとっており、トレーニングを受けたメンバーの広がりには 200 名を超えた。

C. 『貧困対策事業』 —自助自立を目指して、収入・雇用を生み出す諸プログラムの推進及び指導 -

1. マイクロクレジット支援・能力開発

2011 年度は、インド、カンボジア、ネパールに於いて女性の相互扶助グループ支援、マイクロクレジット、牛の銀行、就労向上のためのレンガ工場建設などの生活自立支援事業を実施した。新規にインド、マハラシュトラ州チャン

ドラブール地区において建設されたレンガ工場において、組管理によるレンガ製造がおこなわれている。その他、モンゴルにてヤギの牛乳による収入向上支援を今年度から開始。今後のモンゴルへの収入向上からネットワークへと発展することが期待される。

2. 職業訓練

外務省日本 NGO 連携無償資金協力の助成により、インド、カルナータカ州ビジャプール地区にて建設した職業訓練学校が定員 42 名を迎え無事開校することができた。今後は、高い就業率を持つ学校としての技術向上を実施していくことが課題となっている。

3. 保健衛生指導・医療

(1) トイレ建設

ネパール(1 棟)及びラオス(1 棟)にてトイレ建設を実施した。ラオスの学校は、遠方から通う生徒たちに簡易の竹でできた学生寮に住むことになっているが、トイレがなかったために不衛生な環境であったが、本支援により、生徒や学校環境の衛生改善に貢献することができた。

(2) 医療支援

中国新疆ウイグル自治区の農村地域の医療環境改善を目的にアナディアル病院の医療環境充実化に努めてきた。本年度は、血液成分分析機と手術機器を支援し、年間 76,426 人の患者に対応することができた。

(3) 保健衛生教育

バングラデシュの地下水のヒ素問題の軽減策として、栄養摂取が効果的であるとの報告を受け、今年度本会は、味の素「食と健康」国際協力支援プログラムの助成を受け、ヒ素問題と栄養改善の普及に必要な教材開発を開始した。2 年続いた本事業の最終の年であり、懸案の教材「紙芝居～水に棲むおばけの話」が完成し、バングラデシュのポリシャル県、ジャマルプール県、ガジプール県の小学校及び衛生教育担当の教員に配布した。教材は今後、授業の教材として使われることとなった。

4. 提携 NGO 運営助成

本会の現地提携団体の運営及びマネージメント強化のために、インド(RUDYA、BSVIA、HDSI)、カンボジア(KAFS)、スリランカ(SARVODAYA)、タイ(TAFS)の運営支援と活動強化指導を行った。

D. 『環境事業』 —自然環境保全、及び再生に必要な諸活動の支援—

1. 植林・水源涵養林養育支援

2011 年度はアジア 4 カ国、(中国 76,100 本、カンボジア 3,000 本、ネパール 2,376 本、フィリピン 2,050 本)において植林を実施した。2003 年度から毎年助成を受けて実施した日中緑化交流基金による中国への植林事業は本年度をもって終了する。環境保全を通して、日中双方の友好を深めるとともに、中国農村の女性グループの育成、四川地震震災復興のための胡桃植林による収入向上・指導を通じた、農村の環境及び、生活改善に寄与することができた。9 年間にも及び日中緑化交流基金が助成をしてくださったことに、心より感謝を申し上げる。

2. 環境改善・市民による環境保全活動(国際グリーンスカウト運動)

地球環境保全戦略の一環として 1986 年に本会提唱の環境保全市民運動(通称、グリーンスカウト運動)は、本会の現地提携団体を中心に定着した活動となってきている。2011 年度は、インド、カンボジア、ネパール、マレーシア、フィリピンにおいて様々な活動が展開された。ネパールにおける小学校の生徒のための環境教育も年々充実化し

ており、本会が支援している学校同士が本プログラムを通して交流を重ね、お互いの環境を比較しながら、自らの環境を改善していく取り組みが子どもたち中心に行われており、本来のグリーンスカウト運動の目的であった青少年における環境保全運動が盛んに行われるようになった。今後も同様のプログラムを継続し、ネパールだけでなく、他国の刺激になるように取り組みたい。

3. 再生可能エネルギー資源活用支援事業

ネパールにおいてバイオガス・プラント事業の名の下に、年々増加する燃料としての木材資源の消費を抑えるため、及び健康上の理由(煙による諸種の弊害、例、眼病の防止等)からバイオガス利用を各家庭に奨励している。薪以外に生活燃料を持たない貧農家族への共同利用奨励事業としている。本年度は、従来から実施しているバイオガス・プラント普及のための研修を継続して実施すると同時に、牛の銀行も行い、牛の持つことの出来ない世帯に対してバイオガス・プラントの恩恵が受けられるように配慮した。また、牛の銀行により、地元の収入向上にもつながっており、今後も同様の支援を継続していく。平成 22 年度国際ボランティア貯金に係る寄附金の配分を受け、本事業を実施した。

E. サイクル・エイド事業

社会問題化している放置自転車の有効利用の一環として、開発途上国の社会活動に役立ててもらうために、中古自転車を必要として要請される地域に寄贈する事業。本会では 2005 年より大阪府の事業を受け継いで実施している。2011 年度はタイのウィエンサー郡に 370 台が寄贈された。タイにおいても自らがサイクルエイドプログラムを啓発していこうと、寄贈された自転車にてサイクルラリーを行い、本プログラムのタイ国内における広報に取り組むと同時に自転車における環境保全効果を PR する形となった。

各事業に関連して、ワークキャンプ(カンボジア、ネパール、フィリピンにて 4 カ国 11 回)を実施。事業に伴い必要な海外視察が実施された。

国際交流事業

A. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

将来のアジアのネットワークを担う各国の専門職員の研修、養成のために、奨学金支援を行っている。2011 年度は、フィリピンのアジア社会科学院(ASI)にて実施されているコミュニティ・デベロップメント・コースに 4 名が研修を行い、内 3 名の奨学金を支援した。

2. 海外ボランティア研修生

2011 年度は、1 名を海外ボランティア研修生としてフィリピンへ海外派遣を行った。

3. 日本語教師派遣

日本語を通して、日亜交流を図るために日本語教師を派遣。本年度は、フィリピン、バンダン町に日本語教師 1 名を派遣した。今後も定着派遣できる日本語教師が期待される。

B. ネットワーク推進事業

「貧困無きアジア社会」の実現を目指して、アジアの人々と連帯していくための本会が誇る活動事業の一つである。アジアに「理解と協力と連帯」の輪を広げることが本会の各種支援事業の目的である。アジアのネットワークは単にアジア人のためだけを目的とするものではない。世界に対するアジア的貢献を目指し、アジアのネットワークを通じて世界に貢献できるアジア人(若者)の育成を図ることにある。

アジア夢基金の設立に伴い、本会のネットワークも 18ヶ国 64ヶ所にまで拡大した。

1. 国際会議

アジア国際ネットワークセミナー

インドネシアのバリ島にて第 22 回アジア・国際ネットワークセミナーが開催された。ホスト国インドネシアからの参加者を含めアジア 10ヶ国 37 名を迎え「災害時における国際ネットワークのあり方」をテーマに開催された。東日本大震災、タイ大洪水などの災害もあり、大規模の災害に対するアジア各国の動きをどのように図るべきなのか、自らが何をすべきなのか検討する良い機会となった。東日本大震災において本会が国内において実施してきた様々な活動を紹介し、各国の災害における活動の参考になるなど、災害のことをアジア全般で考える良い機会となった。本年度からアジア国際ネットワークセミナーの大幅なルールを変更し、基本的に日本側が 100%資金負担するという形はなくなり、ほとんどの参加者が全額または 50%を負担するという形になった。

アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金、“アジア・フレンドシップ夢基金”は、昨年度から日本国内外において積極的に動き始め、今年度はアジアからの基金が多く集められた。特に東日本大震災においては、フレンドシップ夢基金の効果が発揮され、これまで支援を行っていた地域や国々のうちから 6ヶ国 12 地域から合計 1,567,284 円が集められた。その他にも 4 チャプターが新たにフレンドシップ会員として加わり、今後もこの動きは更に広まっていくことと期待される。

アジア・ユースサミット

2011 年度、財団法人地球産業文化研究所の愛・地球博成果継承発展助成事業及び、財団法人大阪国際交流センターの助成を受け、国内・海外を含め約 186 名参加の下、アジア・ユースサミット・プログラム(メインは第 2 回アジア・ユースサミット)を開催した。本プログラムのテーマを「地域の中で子どもたちの幸せを実現するために」とし、本プログラムを実施した。東日本大震災が発生し、改めてプログラムを再構築し、震災ユースサミット、第 2 回アジア・ユースサミット、被災地におけるフィールドスタディ及び交流プログラムなどを実施した。

メインプログラムの第 2 回アジア・ユースサミットにおいては、参加高校生は事前に調査・研究を行ってきた地域の課題や特徴をプレゼンテーション・プログラムにて発表した。それらと震災ユースサミットの提案事項、幸福度チェックシートの分析結果などを受けてどのような行動を自らが起こしていくべきなのかを、グループディスカッションを行い、全体会議を経て、アクションプランを採択した。その後、海外参加者は東日本大震災の被災地である宮城県本吉郡南三陸町歌津にて小学校、避難所、仮設住宅への慰問、交流を行った。

当プログラムは、日本全体が東日本大震災という大きな危機にある中、自然と調和し「地域の中で持続可能な社会を実現する」というテーマの重要性を再認識して行われた。参加者たちは一人ひとり大きな責任感を抱いて当プログラムに参加し、アクションプランを採択するという成果を挙げ、その実現に向けて現在もそれぞれの地域に帰って活動を行っている。13ヶ国の若者がかけがえのない時間と空間を共有し、多様な文化や考え方を受け入れながら、共に地球規模の問題解決に向けて努力し、連帯していくことを誓い合ったことは大変意義深いことであったと自負している。

2. 国際体験交流(スタディーツアー等)

本年度は、バングラデシュ(2回)、中国(2回)、ネパール(2回)、ラオス(1回)の国際スタディーツアーを実施。

生活支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

<東日本大震災被災地への支援>

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災にて被災した宮城県本吉郡南三陸町歌津を中心に、認定 NPO 法人ジャバ

ン・プラットフォームとの連携の下、本会は炊き出し、物資配布、児童対象のプログラム、アジア交流プログラムなどを実施した。本会からもボランティアを幾度も現地に派遣し、5月末まで緊急期の支援を行った。

その後は、宮城県登米市に本会の支部を置き、現地にて志を持った人たちを中心に、仮設住居移住後の支援を行った。まず、はじめに、仮設住居にて生活を始めるためのスターターキットの配布、定期的に仮設住居を見回り生活物資などの提供を実施。また、政府や自治体などの情報が正確に伝わるように地域情報誌「桜通信」を発行し、仮設住居などに配布を行った。その他、被災者のニーズに応じて速やかに対応ができるように、きめ細やかな聞き取り調査を行った。

現在、津波により収入源さえも失われた被災者の生活復興と収入源の確保のために、現地の産物の一つである味噌の味噌加工所及び、現地名産品を販売するための販売所（みなさん館）を建設している。地元の運営委員会や協議会、組合を中心に登米事務所のスタッフとともに、地元の雇用創出と収入確保が期待されている。

<台風 12 号被災地への支援>

本会も昨年 8 月下旬に日本を縦断した台風 12 号により、本会プログラム「土と水と緑の学校」の拠点である和歌山県新宮市に甚大な被害をもたらした。災害直後から本会は現地入りし、物資配布などを行い、その後も国際グリーンスカウトのメンバーが中心となり、被害にあった家屋の清掃作業などを行った。長年「土水」と実施を通して築き上げられた地元との絆を改めて再認識させられた。

<タイ洪水支援>

2011 年 9 月のモンスーンがもたらした大量降雨によるタイの大洪水において、チョンブリ県に一時避難をした被災者に対して、生活物資の配布を実施した。今後はこの洪水を教訓に防災研修のための学習施設を建設する予定でいる。

普及啓発事業

本会の活動・事業に対し、より多くの理解と支援を得るためには普及啓発活動は欠かすことのできない重要な業務である。同時に、本会の活動・事業への関心を喚起することはアジア社会のみならず、国際協力やボランティアへの関心や認識を深めることに繋がり、ひいては国際理解や地球社会への関心を高め、日本市民の地球社会への市民的貢献を果たすことになる。かかる意味において、本会の広報活動は活動報告をはじめ、各種の学習会、勉強会や講演会、更には、開発教育や環境教育等多岐にわたる諸活動を行ってきた。

A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) チャリティー・プログラム

会員が中心になって企画運営する事業(チャリティーバザー、街頭募金など)は、東日本大震災の支援を中心に各地域において実施された。支援金を集めるだけでなく、より多くの人たちに被災地の状況を知らせる機会を多く提供することができた。

(2) 国際理解教育授業

教育事業としては国際理解教育講座として、学校出前事業(講師派遣のべ 18 校、参加生徒数 2,957 名)、本会での校外授業(2 校、38 名)及び、国際理解教育セミナー(2 回、118 名参加)を実施した。また、大学 3 校(計 10 名)からインターンシップ・実習受入を行い、市民活動参加の機会を供給することが出来た。

(3) インド文化センター講座

東日本大震災支援のための諸活動により本年度の開催を延期することとなった。

(4) アジア文化理解講座

アジア家庭料理教室では、アジア 13 地域、22 回の料理教室を開催した。のべ 371 名の参加を得た。

(5) 会員大会

第 4 回 JAFS 会員大会として、82 名の参加のもと、様々な分野で 1 年間顕著な活動をした個人・グループへの表彰を行った。プログラムの一つとして東日本大震災の活動報告及び被災状況のビデオを流すことにより、震災の状況を改めて各会員に意識させ、さらに啓発するきっかけづくりを行った。

(6) 国際協力ボランティア講座

本年度は東日本大震災支援の諸活動のために本講座の開催を延期した。その代わりに震災の活動報告を定期的実施することにより、ボランティア啓発活動に努めた。

(7) 関連プログラム

2011 年度は、ワン・ワールド・フェスティバル(国際交流センター)に運営委員として参加。多くの団体との連携の中、理事や運営委員として協力した。

2. 地区活動

国際協力を広めるためには、市民の協力が不可欠であり、日本国内における地道な地域広報活動が必要である。本年度も本会の事業を支えていく会員(特に各地域間の連携をスムーズにする地区世話人)を中心に、様々な活動が実施された。東日本大震災もあり、本年度の地域活動は、震災支援を意識したものが多く、震災における現地の状況をより多くの人たちに広める役割になり、多くの支援を得られる結果となった。

3. 広報

本会の活動・事業はその機関紙である、「アジアネット」及び会員活動情報誌である、「会員プラザ」をはじめ、ホームページ、インターネット広報など多種にわたり広報活動を行ってきた。

A. 機関誌

アジアネットを 2 回発行、会員プラザ 2 回 2 誌発行し、会員を含め広く活動を広報した。

B. インターネット

昨年度に一新されたホームページを定期的にオンタイムにて更新することができ、本年度は、JAFS 公式のブログを立ち上げ、東日本大震災の報告から様々な活動報告をオンタイムで掲載することができるようになった。今後はブログを活用し、海外からでも容易に更新でき、現地の生の状況をよりオンタイムで届けられるようなシステムをとっていきたいと考えている。その他に、フェイスブックとの連携、メールマガジンの発行、JAFS 地域の各ブログの協力を通して、本会の広報活動に努めることが出来た。

4. プロジェクト支援(支援会・ファミリーグループ)

各支援会、ファミリーグループが様々なイベントやチャリティ活動に参加し、本会の支援事業の応援を精力的に展開していった。

5. 関連市民活動

関西ナショナルトラスト協会、日本を良くする会、グリーンベイ OSAKA の活動もそれぞれの設立趣旨の元、活動が活発に行われ、本会との活動の連携も様々な形で実施された。他機関とも積極的に活動を連

携し、特に東日本大震災の支援におけるジャパン・プラットフォームによる連携はますます強化され、本会の緊急支援活動に大きく寄与している。

B. 環境保全・啓発教育事業

環境保全・教育を中心に次世代の人材育成のために以下の事業が 2011 年度、実施された。

1. 国際グリーンスカウト活動

(1) 土と水と緑の学校」開催

「土と水と緑の学校」は 2011 年に 28 年目を迎えた。参加者 79 名、リーダー、各種ボランティア等を含め総勢 155 名が参加し、自然環境へ親しむ心を育て、青少年のリーダーシップ育成につながった。新宮市の協力もあり、東日本大震災にて被災にあった宮城県名取市の児童も参加した。

(2) 各部会活動

本会が提唱した国際グリーン・スカウト(“Clean & Green”の標語の下で、地球環境保全を地域で推進する)活動として、アジア各地のグリーン・スカウトメンバーが活動を行っている。現在、国内では大阪、吹田、寝屋川・枚方が部会を持つ。GS 大阪は毎週水曜日及び土曜日に例会を開催、年 4 回のエコキャンプや環境プログラムの開催、リーダー研修を行った。台風 12 号にて被害の大きかった和歌山県新宮市にボランティアを派遣し、支援活動を行った。GS 吹田は、年 1 回の無人島キャンプ(事前、事後に研修のためのキャンプを 2 会開催)及びクリスマスキャンプを実施した。毎月 1 回の例会と吹田市の糸田川の定例の清掃活動を 11 回開催。GS 寝屋川・枚方に関しては、第 2 エリアの植林活動「北河内緑とふれあう会」に参加した。それぞれがグループの特色を活かして活動した。

(3) ウォーカソン

“地球の水と緑を守る”ためのウォーカソン(基本的には地区活動の一環として実施)を 4ヶ所で開催し、のべ 49 名が参加した。

(4) クリーンUP運動

2007 年度より始まった土佐堀クリーンUP運動。6 回開催し、のべ 64 名の参加を得た。地域の住民や企業の参加が見られた。

V. 運営管理

本会の運営の責任母体は理事会である。理事会が決済し、事務局にて実施される。本会理事会は会長、理事長の下に 11 の常置委員会があり、本会活動を管理運営している。また、評議員会も本会の政策諮問の役割を担う、シンク・タンクとして世話人を中心に活発な活動がなされた。

以上、ここに報告された諸活動は、ひとえに、理事、評議員、社員(正会員)、及び会員、協力者、一般の方々のご支援の賜物であります。日本国内の経済の低迷、東日本大震災、福島第一原発、台風 12 号などの問題が続く中、国内に目を向けながら、アジアの問題に対しても取り組みを続け、解決しようと動き、応援して下さった皆様に感謝を持って、2011 年度活動概況をご報告申し上げる次第である。

・開発支援事業

- A . 水事業

1 . 井戸・飲料水供給

(2012年3月現在)
(パイプライン・貯水タンクを含む)

国名	2011年度完成	累積
インド	-	444
インドネシア	-	44
カンボジア	27	296
スリランカ	7	84
タイ	-	88
中国	-	1
ネパール	8	118
バングラデシュ	9	138
パキスタン	-	8
フィリピン	9	342
ブルキナファソ	-	1
ミャンマー	-	14
ラオス	5	17
合計	65	1,595

カンボジア

KAFS タケオ州 27基

露点式井戸 27基

ため池の水を生活用水として使用している村人たちの衛生、健康及び生活改善のために井戸の供給。

- タケオ州トリアン郡クバブ地区タスレン村(2基)
- タケオ州トリアン郡クバブ地区コーコー村(2基)
- タケオ州トリアン郡サンロン地区タプラス村(2基)
- タケオ州トリアン郡ブランベイマム地区ドムナックレアチア村(3基)
- タケオ州トリアン郡ブランベイマム地区チュテアブローズ村(2基)
- タケオ州トリアン郡ブランベイマム地区トラバンベン村
- タケオ州トリアン郡ブレイスルック地区トラペアンベン村(2基)
- タケオ州トリアン郡ブレイクスルック地区ブレイスルック村(2基)
- タケオ州トリアン郡ロネアム地区タマダ村
- タケオ州トリアン郡ロネアム地区ブレイ・パ・エイ村
- タケオ州トリアン郡ロネアム地区ソフィ村
- タケオ州ドーンケオ郡ロカクラウ地区トメイ村
- タケオ州ドーンケオ郡ロカクラウ地区トラバインサラ村(2基)
- タケオ州ドーンケオ郡ロカクラウ地区トレイム村
- タケオ州ドーンケオ郡ロカクラウ地区トラバイン・アン村(2基)
- タケオ州ドーンケオ郡ロカクラウ地区ソーチャン村(2基)

第17、18、19、20回イオン労連ワークキャンプにて実施

イオン九州・マックスバリュ中部労組ワークキャンプにて実施
イオンリテールワーカーズユニオンワークキャンプにて実施

スリランカ

SARVODAYA スリランカ全域 7基

露天式井戸 7基

遠方まで安全な水汲みをせざるを得ない村へ、井戸建設を実施。水汲みの重労働の解放と生活の改善を行った。

- アンパラー県ヌゲランダ村
- アンパラー県ヒミドゥワラ村
- アンパラー県クダガーラ村
- アンパラー県パダゴータ村
- ケガール県ヘワディウエラ村
- ケガール県クダガマ村
- ケガール県ナランゴダ村

ネパール

AFS ネパール 全域 8基

露天式井戸 1基

バグマティ県バクタプール郡スタール村

簡易水道付給水タンク式井戸 6基

- バグマティ県カブレ郡トックチャ村(1基)
- バグマティ県バクタプール郡スタール村(4基)
- バグマティ県シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村(1基)

ポンプ式井戸 1基

ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村(1基)

バングラデシュ

安全な飲料水のアクセスが困難な、ポリシャル県に深井戸(掘削約200m以上)を建設。村人の衛生、健康及び生活の改善を行った。

BDP 9基

ポンプ式井戸 9基

- ジャマルプール県ジャマルプール郡ビスノプール村(2基)
- ポリシャル県アグルジョラ郡バルクシ村
- ポリシャル県アグルジョラ郡バロパイカ村
- ポリシャル県アグルジョラ郡バカル村
- ポリシャル県アグルジョラ郡アスコール村
- ポリシャル県ジャラ郡バロイバラ村
- ポリシャル県ウジールプール郡ジャラ村

・開発支援事業

ゴパールガンジ県コタリパラ郡ナリカルバリ村

フィリピン

KALIPI ヌエバエシハ州	8基
ポンプ式井戸	8基

稲作地帯が広がるヌエバエシハ州では、農業・化学肥料が使われるため、深度の浅い井戸からは化学物質や生活污水が混入している。国連でも認定された 25m以上の深さの井戸を掘削した。これにより、各地に安全な飲料水を提供できた。

カバナトゥアン町ボ・オブレロ村ブロック 3
 カバナトゥアン町ボ・オブレロ村ブロック 4
 カピアオ町サンフェルナンド・ルテ村ブロック 4
 カピアオ町サンフェルナンド・サウス村ブロック 2
 サンレオナルド町M・バラヨック村ブロック・トゥマナ
 サンレオナルド町カリピ村カリピ
 ハエン町ハエンウェスト村ハエンウェスト小学校
 ハエン町サンジョセフ村ハバルヤス

AFS-Virac,Catanduanes カタンドゥアネス州	1基
簡易水道付きポンプ式井	1基

カタンドゥアネス島の村々では、沿岸部に居住区があり、通常の井戸からは海水の混ざる水が汲み上げられる。そのため、山手に深井戸を建設し、モータで汲み上げて 1.9km のパイプラインで家庭まで水を引くことができた。

ピラク町カランボン村
 情報労連 2012 年のワークキャンプにて実施

ラオス

LPRYU ラオス全域	5基
電動給水式井戸	4基
ポンプ式井戸	1基

安全な水へのアクセスが困難なところへ衛生、健康及び生活改善のための井戸を建設。本年度は以下の地域に井戸を建設した。

ビエンチャン特別市シコタボン郡タトン村
 ビエンチャン特別市サイセーター郡ソムサガ村
 ビエンチャン特別市サイセーター郡サイセーター村
 ボリカムサイ県ボリカム郡ボリカム村
 サヤブリ県サヤブリ郡スアン村

建設中の井戸	22基
---------------	------------

インド	6基
カンボジア	2基
スリランカ	0基
ネパール	5基
パキスタン	0基
バングラデシュ	0基
フィリピン	0基
ミャンマー	3基

ラオス

6基



サヤブリ県に完成したラオスの井戸



カンボジア、タケオ州に完成した井戸



フィリピンのピラク町にてパイプライン建設の作業中

- B . 子ども事業

1 . 初等教育普及・向上

(1) アジア里親の会

アジア諸国において、教育に対する重要度が理解され、農村部においても就学率の向上が見られるようになってきている。しかしながら、低学年において就学率が高く高学年になり働くことができる年齢に達すると学業よりも一家の働き手として考えられる状況は依然多く、高等学校卒業まで就学を続ける率は農村部においては圧倒的に低い。また、きょうだいが多い家庭においては男子への教育が優先となり、女子への教育は後回しになっている状況は変わらない。このような就学問題は、こどもの問題よりも社会的背景、経済的理由である。子どもにとって「学校で学ぶ」ことは、成長していく上では必要不可欠である。そのこどもの権利を支援するために「アジア里親の会」を通じ一人でも多くの子どもが基本的な教育を受けることができることを目指している。

本支援では、里子の学費や彼らが通う教育施設の運営を支援。里親には対象の教育施設に通う子ども(里子)を紹介し、手紙などによる相互交流を行った。2011年度は333人の里子を支援。

アジア里親の会 里親決定状況 (2012年3月現在)

国名	2011年度里子数	里子累計数
インド	90	240
カンボジア	73	106
ネパール	120	153
バングラデシュ	36	165
フィリピン	14	14
合計	333	678

インド

BSVIA 日印友好学園コスモニケタン プライマリースクール 14名

[カルナータカ州ビジャプール地区]

日印友好学園コスモニケタンの教職員給料、制服、教材費などの運営費を支援。

SSH JAFS 教育支援事業 47名

[タミルナードゥ州ディンディガル地区 27名・ナマカル地区 20名]

家庭の事情により学校に通えない小学生、特に家族や両親、子ども自身が HIV に感染し、差別を受けている子どもたちを対象に、より多くの子が学校へ通えるために学費や制服代、学用品などを支援(累計 70名)。

RUDYA JAFS 教育支援事業 29名

[マハラシュトラ州ガッチロリ地区]

マハラシュトラ州ガッチロリ県のバグトラ小学校に通う少数民族の子どもたちは自宅よりの距離が通学できる距離ではないために寮生活が必然とされる。その寮生活の支援と継続して就学できる

ための支援を実施。

カンボジア

KAFS 教育支援事業 73名

[タケオ州、コンボンチュナン州、カンダール州]

コンボンチュナン州とタケオ州そしてプノンペン近郊のカンダール州にある小学校の運営支援、及び、子どもたちへの教材支援。里子を対象とした英語の課外授業の支援。

ネパール

AFS-Nepal ビトゥリ村小学校支援 18名

[ノールバラシ郡ビトゥリ村]

ビトゥリ村のスリーサンティ小学校、ラーズラトナ小学校、ビトゥリ小学校の就学対象者の中で自費就学が不可能な子どもへの学費支援と学校運営支援。

ヤシャシュビ学園 58名

[カトマンズ郡シタパイラ村]

ヤシャシュビ学園近郊のシタパイラ地域とその周辺に住む、就学困難な子どもたちに就学の機会を与え、継続就学と高校教育修了を支援。

AFS-Nepal ナウリンセカンダリースクール 44名

[カトマンズ郡チュニケル村]

チュニケル村の自費就学が出来ない子どもへの学費支援と学校運営支援。又孤児になった就学生を3グループで支援し10年生までの就学を可能なように支援実施。

バングラデシュ

BDP JAFS 教育支援事業 36名

[ダッカ・ミルプール地域、ガジプール地域]

ダッカ・ミルプール地域及び農村部のガジプールの子どもたちが個人負担費が多くなるために小学校以上の就学率が下がっている。それらの子どもの中等～高等教育の就学支援を実施。

フィリピン

ASI JAFS 教育支援事業 14名

[カピテ州ダスマリネス町パリバラ]

スラム街でストリートチルドレンとして生活していた子どもたちが移転政策後の不安定な生活の中、小学校での教育を受けることができるように学費や学用品などを支援。劣悪な生活環境からトラウマになっている子どもたちの精神的なケアも同時に行っている。

2. 教育設備・環境整備

(1) 学校建設

(2012年3月現在)

国名	2011年度建設数	校舎棟累計数
インド	—	20
インドネシア	—	2
カンボジア	-	41
タイ	—	10
中国	—	1
ネパール	-	19
パキスタン	—	2
フィリピン	—	7
ベトナム	—	3
合計	0	105

学校数及び研修施設、コミュニティホール数を含む

ネパール

AFS-Nepal 小学校図書室建設仕上げ作業 1棟

【ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村ラズラトナ小学校】

ネパール政府の指導により小学校に図書室併設が必要となり昨年度建設を実施。今年度はその仕上げ作業として壁面に友好の壁画を描き、子どもたち及び地域に大切にされる建物としての仕上げを行った。

第39回ネパールワークキャンプで作業実施

(2) 教育環境整備

インド

BSVIA 日印友好学園コスモニケタン支援

【カルナータカ州ビジャプール地区ブルナプール村】

郊外の貧農地帯にある本会設立の日印友好学園コスモニケタン小・中学校の子どもたちの教育資金を提供することができた。さらには老朽化していた学校の机や椅子(52セット)などを新たに購入し、快適な環境の中で子どもたちが学習できる環境を整備した。

RUDYA 日印友好学園グラミン小学校

【マハラシュトラ州ガッチロリ地区バダトラ村】

マハラシュトラ州において最も貧しく、少数民族などが多く居住する、ガッチロリ地区の子どもたちが、適切な教育を受けることが出来るように2001年に完成した日印友好学園グラミン小学校。現在、小学生1~8年の70名がこの学校に通う。本年度は12名が家庭の事情により、辞めざるを得なかった。

本年度は、学校に通う生徒70名の制服及び教科書、学用品の供給、寮にかかる諸経費、及び教職員7名の給料を支援。2011年度はマハラシュトラ政府の規定により1学年増加し、プライマリーレベルとして、1~8年生までの子どもたちがこの学校に通うこととなった。課題は校内に遠距離から通う子どもたちの学生寮を設置したために、公立化(学校の運営の補助)が認められず、2012年に改めて学生寮を建設せざるをえなくなった。

フィリピン

AFS-Pandan タバイ小学校修繕

【アンティーク州バンダン町タバイ村】

山間にあるタバイ小学校。2004年に新たに1教室が建設され、6年生まで学ぶことができるようになった。以前からあった旧教室の方の屋根が傷み、雨漏りのする状態であったところを、天井の張り替え、屋根の取り換えとペンキ塗りを行い、子どもたちが年間を通して安心して学習できる環境を整備した。

第8回フィリピン京都暁星高校ワークキャンプで作業実施

3. HIV/AIDS子ども感染予防

インド

SSH HIV/AIDS 支援 10世帯

【タミルナドゥ州ディンディガル地区・ナマカル地区】

タミルナドゥ州ディンディガル地区、ナマカル地区は非識字層の移動労働者が多く、出稼ぎ先の都心部にて性交渉を持ち、HIV/AIDSに感染し、地元にて拡大させている。本会はHIV/AIDSの影響下及び感染している世帯を対象に支援を行っている。支援内容としては、抗HIV薬購入支援、栄養価の高い食材の購入、HIV/AIDSの啓発教育などを行い、HIV/AIDS患者対応の支援だけでなく、感染防止のための啓発教育をかねる総合支援を行っている。

インドの急速な経済成長による貧富の格差の拡大と経済成長と移動労働者の広がりにより、HIV/AIDSの感染者に歯止めがからない。NGOだけでなく、学校などの教育機関を通した理解と啓発教育強化が必要である。

4. 栄養改善・ストリートチルドレン

の保護・教育環境整備

ネパール

ラリット福祉センター JAFS 教育支援事業

【バグマティ県ラリットプール地区】

孤児や母子家庭の子どもを対象に教育の機会を提供している社会福祉団体の学校。教師1名の給料と運営費を支援。自力で就学することが困難な子どもたちが、学ぶ機会を得られるように支援を行った。

AFS-Nepal 栄養改善支援事業 小学校給食

【ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村】

ネパールの農村では経済状況が不安定なため、日常の食事から摂取できる栄養素に偏りがある。特に成長期の子どもたちに必要なたんぱく質をはじめとした栄養素の摂取が不十分な状態である。健康状態や成長が改善されることを目的として、ピトゥリ村スリーサンティ小学校の約200名の生徒を対象に、毎週木曜日に卵と牛乳の給食を継続的に支援を実施(17年間)。学校のプログラムに組み込まれるようになり、子どもの栄養不足を補うだけでなく、様々な教育的要素を持つようになってきている。昨年度より政府から給食支援が実施されるようになり、小学1年生より5年生の子ども達へは毎日1品の食べ物が給食として支給されるように

・ 開発支援事業

なった。しかし栄養的なフォローがされないために継続してたんぱく質補給のための卵と牛乳の給食支援と就学前クラスの子ども達への給食支援を継続して実施。

上記学校のにならず本会のかかわりのある小学校5校の子どもたち(学校名は環境プログラム報告参照)へも栄養知識の習得のための教材を配布する共に環境セミナーの際にもプログラムを実施した。今後、実際にメニュー構成ができるような教材づくりを実施する指導を行っていく。

バングラデシュ

BDP 安全な水と栄養・健康に関する教材開発事業

【ボリシャル県アグルジョラ郡、ウジプール郡、ゴウルノディ郡】

バングラデシュにおける深刻な地下水のヒ素含有汚染において、ヒ素の人体への影響を軽減させるために栄養摂取が必須であることから本会は現地提携団体 BDP が運営する学校を中心に、教材(紙芝居)を開発し、栄養摂取のための啓発を図った。本年度は、本事業最終年であり、昨年度の調査を反映し、生徒たちにわかりやすく楽しめるストーリー及びデザインを作り、学校の先生たちが使いやすいように、学校の先生の意見を反映させながら、試作、テストを行い、最終盤を作り上げた。また、これと同時に前年度の調査を通して浮かび上がった課題(家庭菜園にて野菜を育てることが出来るが、ほとんどは家族の収入のために売りに出され、実際には栄養豊富な野菜を摂取することができない)を解決するために、生徒たちに野菜の種を乾期・雨季に二度配布し、作物の育成を生徒自らの手で実施し、成長記録をつけさせ、その野菜を摂取するようにした。その結果、両親や祖父母などの協力を得ながら、生徒たちは自らの手で作物を育てることが出来るようになった。野菜作りを通して、従来学校の教育に関心のなかった両親たちが関心を示し、積極的に野菜作りに参加するようになり、また、食卓に野菜を含めるようになっていった。

紙芝居は「水に生きるお化けの話」というタイトルの下、ボリシャル県にある小学校に配布し、授業の一部に使用されるようになった。また、発行部数を増量し、ガジプール県、ジャマルプール県のBDPが運営に携わる学校にも配布され、今後授業の中で使用されるようになった。

今後の課題としては、この紙芝居をさらに多くの地域に理解を深めてもらいながら普及をしていかなければならない。

2010年度味の素「食と健康」国際協力支援プログラム助成事業

フィリピン

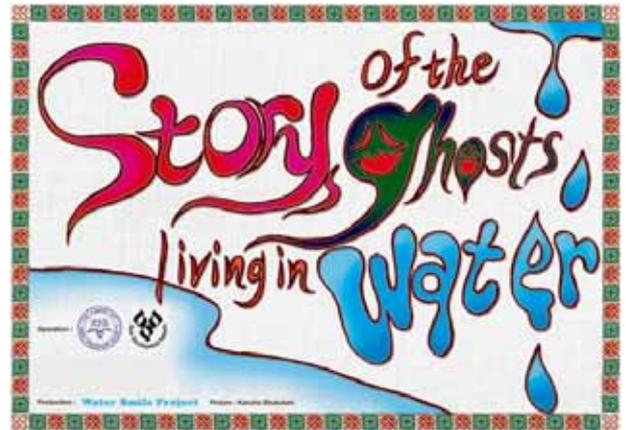
ASI ストリートチルドレン支援

【カピテ州ダスマリネス町バリバラン】

2004年度より支援を行ってきたマニラ市内の国鉄の線路沿いに形成されたスラム街は、フィリピン政府の政策により、2007年の全国総選挙に伴い一斉に強制撤去された。南に約60km、車で2時間半のカピテ州ダスマリネス町への移転を余技なくされた。

アジア里親の会のプロジェクトとして子どもたちの教育を支援、学校の授業に立ち遅れてしまう子どもたちには補助的な教育指導も行った。また、環境教育のキャンプやユースリーダートレーニングのプログラム、家庭環境から来る精神的な不安に対してのケアも実施。

特にリーダーシップトレーニングは、15歳以上の若者を各地から集い、リーダーシップに関する一貫したトレーニングを行い、そこで認証を受けたリーダーが各自の村に戻りさらに年下の小学・高校生に伝えていく方法をとっており、トレーニングを受けたメンバーの広がりは200名を超えた。



完成した紙芝居(バングラデシュ教材開発事業)



完成した小学校の図書館の正面及び壁画を描いて仕上げ作業(ネパール図書館建設事業)



修繕された学校の前で(フィリピン、学校修繕事業)

- C . 貧困対策事業

1 . マイクロクレジット支援・能力開発

インド

RUDYA 女性の相互扶助グループ(SHG)事業

【マハラシュトラ州ガッチロリ地区ボリ村】

本年度もアディバシー少数民族が多数を占めるガッチロリ地区において、生活自立支援のために Self Help Group(SHG=女性の相互扶助グループ、一グループ約 10 名～20 名)を結成し、貯蓄指導、少額貸付(マイクロクレジット)へのコーディネート、リーダー育成などの指導を行った。昨年度同様、現在抱えている、約 40 もの SHG の貯蓄管理、リーダー育成などの指導を行った。残念ながら、スタッフ不足の課題が解決されず、現在も指導不足の SHG のエンパワメントが行えない状況にある。

カンボジア

KAFS 25 世帯 5 グループ / 5 人

【タケオ州ドーンケオ郡コクラウ地区トラペアンサラ村】

2011 年度はタケオ州ドーンケオ郡の 25 世帯を中心にマイクロクレジット(農村の人々の起業のための小口ローン)を実施した。主には衣服の小売、肥料購入、靴の修理、養鶏などにて起業し、収入向上を行った。長年継続して実施しているプロジェクトであり、住民からの信頼も厚いが、インフレのために一回の貸付額を上げざるを得なくなり、資金不足から貸付世帯が少なくなっている。カンボジアの現在の経済にそった貸付資金強化が現在の課題となっている。

ネパール

AFS- Nepal 牛の銀行事業

【バグマティ県バクタプール郡スタール村】

農村部においてバイオガスプラントの設置の要望が高くなっている一方、牛または水牛を家畜として持たない世帯はバイオガスプラントを設置することができないことが課題であった為昨年度より乳牛の購入資金を貸し出し実施、今年度は返済金回収と実施の効果に関する調査及び第 2 グループの選出準備を実施した。

フィリピン

AFS-UMD 協同組合設立と運営事業

【ソルソゴン州マトノック町】

ニッパヤシを原料とした屋根材を主な収入源としているこの地域では、材料は買ったたかれ、適正価格での取引がなされておらず、貧困の格差が埋まらない状況を作り出している。協同組合を設立し、適正な貸付の仕組みをもつマイクロクレジットをはじめとした共生可能な事業を行うことで貧困層が基本的な生活を確保できる社会づくりを目指す。また、今年度は、協同組合の運営管理のためのトレーニングも併せて行った。

農村部においてバイオガスプラントの設置の要望が高くなっている一方、牛または水牛を家畜として持たない世帯はバイオガスプラントを設置することができないことが課題であった為昨年度より乳牛の購入資金を貸し出し実施、今年度は返済金回収と実施の効果に関する調査及び第 2 グループの選出準備を実施した。

モンゴル

MoAFS ヤギ支援事業

【ウランガバートル郊外】

ウランガバートル郊外の貧困層の農民のためヤギを支援した。ヤギの牛乳は伝統的にモンゴルにて需要があり、農村の人々の収入向上につながるために、ヤギを引き渡した。

2 . 職業訓練

インド

BSVIA 職業訓練学校

【カルナータカ州ビジャプール地区ブルナプール村・マダバービ村】

外務省 NGO 無償支援資金協力の助成を受け、2011 年 3 月に完成した職業訓練学校。2011 年 8 月に新入生 42 名を抱え、開校した。建設完了が大幅に遅れたために本年度の開校が危ぶまれたが、無事開校することが出来た。地元の期待も高く、今後、ビジャプール地区の工業技術発展と就労向上につなげていけるように指導内容の強化に努めていきたいと思っている。

AFS-SAOLI レンガ工場建設事業

【マハラシュトラ州チャンドラプール地区サオリ村】

農業以外に収入を得る機会の少ないサオリ村。近辺の町からは、町のインフラ整備などに使われるレンガのニーズが高く、本会はレンガ工場を建設し、サオリ村から 3 名を組合代表者に選び、協同組合式のレンガ工場を建設した。現在、レンガは首都圏と比較し、町にては高く買い取ってもらえるために、地元の人々の収入につながっている。今後の課題としては、雇用の持続性を保つために、収益を安定化させなければいけない。そのためには、本工場の市場を保護できる顧客の開拓をしなければならず、今後の課題となっている。

3 . 保健衛生指導・医療

(1) トイレ建設

(2012 年 3 月現在)

国名	2011 年度完成	累積
インド	0	1194
カンボジア	0	4
バングラデシュ	0	275

・ 開発支援事業

パキスタン	0	6
ネパール	1	30
タイ	0	9
ラオス	1	1
合計	2	1519

ネパール

AFS-Nepal 学校トイレ建設支援事業 1棟

【バグマティ県シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村スリー ジャレスワリ小・中学校】

山間地の学校で生徒数約 300 名、8 年生まで編成されているの小中学校。現在まで、300 人に対してトイレ数はわずか 2 のみであった。休み時間に対応出来ず特に高学年生に問題が生じていた。そのためトイレ建設を計画していたが資金不足により設置完成ができない状況であったために資金の一部を支援。現在水の安定供給ができないために来年度は水道設備の支援を予定している。

ラオス

LPRYU トイレ建設事業 1棟

【ヴィエンチャン特別市シクタブン県タン村、
タン職業訓練学校内】

当職業訓練学校は、農村から多くの学生が通い、職業訓練を受け、就業支援を行っている。多くの生徒たちが竹小屋の学生寮に滞在し、生活を送っているが、学校にはトイレがなく、不衛生な環境の中、生活を送らざるを得なかった。学校及び学生の生活環境及び衛生改善のためにトイレ 1 棟(4 基分)を建設した。

(2) 医療支援

インド

RUDYA 緊急患者搬送のための車両購入支援事業

【インド、マハラシュトラ州ナグプール県】

遠距離に医療機関が位置しているために、重病・重症の時でも病院に行くことが出来ず、命を落としかねないケースが増えてきた。インド、ナグプール県の農村のために、患者を搬送することが出来る救急車を購入し、定期的な見回りを実施した。今後は見回りスケジュールを定期化し、医療機関とのコミュニケーションを向上させながら、緊急患者搬送に役立つほか、医療機関との連携により、村への定期医療を向上をさせていくシステムの作っていくことが今後の課題である。

中華人民共和国

アナディアル病院支援事業

【新疆ウイグル自治区カシュガル】

アナディアル病院は農村地域の医療環境改善を目的に 2007 年建設。より多くの患者を受け入れ、医療環境の向上に努めるために機器等の支援を行っている。2011 年度は血液成分分析機と手術機器を支援し、年間 76,426 人の患者に対応することができた。

4 . 提携 NGO 運営助成

本会の国際事業の柱の一つとして、国際ネットワークの各国部会(NGO)の活動を強化は必須である。しかし、発展途上国では NGO の自己資金調達が困難であり助成を必要としている。自立運営を目指して、以下の各団体の運営に協力した。運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

RUDYA(インド)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

BSVIA(インド)

運営費及びプログラム経費を一部補助。

HDSI(インド)

インドにおけるグリーンスカウト運動を全国的に進めるため、運営費及びプログラム経費を一部補助した。

TAFS(タイ)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所経費も本会で負担。

KAFS(カンボジア)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

SARVODAYA(スリランカ)

サルボダヤの組織の中で地域開発を実施している農村開発支部(CCBU)のプログラムを総括的に支援。村の中で様々なワークショップ、無償奉仕キャンプを行い、村の人たちの自立を支援



3 大栄養素についての栄養指導(ネパール)

- D . 環境事業

地球温暖化が加速化し、多発化する大規模な自然災害の一因ともされている。植林を行い、自然を守ることは、頻繁化している大規模な自然災害の勢いを弱まるだけでなく、防災の上でも非常に有効であります。また、バイオガスプラントも新たなエネルギー資源としてもっと世界中にでもっと利用されるべきものであります。

東日本大震災を通して、改めて自然や自然エネルギーに関して見つめ直すきっかけとなった。アジアの農村などで実施されている自然に対する様々な取り組みからの学びは多く、今後、私たちの社会においても有効に活かすヒントがあると思います。

1 . 植林・水源涵養林養育

(1) 植林

(2012年3月現在)

国名	2011年度植林	累積
インド	-	712,205
インドネシア	-	193,960
カンボジア	3,000	9,000
スリランカ	-	400
タイ	-	20,500
中国	78,100	1,105,525
ネパール	2,376	289,437
パキスタン	-	4,560
フィリピン	2,050	83,395
バングラデシュ	-	26,500
合計	85,526	2,445,482

フィリピン

AFS-Pandan バندان水源の森プロジェクト 800本
【アンティーク州バナイ島バンダン町】

2003年度より開始した水源の森保全プロジェクト。今年度は、ランソネス、ランブータン、グヤパノ、アボカド、カラマンシー、マコバ、アティス、サントル、カシュー、ボメロ等の果樹計800本の植林を行なった。

これまで植林した木々が成長し、果実をつけ始めている。地元民の収入源となってきた。また、木々を伐採しての生活から、育てての生活へと意識の変化が見られる。また、現地の女性たちによる維持管理の体制ができてきており、月1回水源管理グループによる草刈り、苗木の成長の確認が行なわれている。

第8回京都暁星高等学校ワークキャンプで植林実施

AFS-Virac, Catanduanes パロンバナネス島水源の森プロジェクト
1,250本

【カタンドゥアネス州カラムラン町トイトイ村パロンバナネス島】

漁村の島、パロンバナネス島、島の7割は、焼畑、森林伐採が進み、現在では禿山が広がっている。その影響は表土の侵食、洪水の増加、サンゴ礁の破壊、水不足、海の汚染、魚の減少などとして出てきている。

2007年にプロジェクトを開始し、植林プロジェクト6年目を迎える。アジア社会科学院の社会開発と有機農業の専門家を講師に環境セミナーを開催し、島の総合的な環境保全を行なった。環境保全に対する地元住民の意識向上と協力体制の高まりが感じられる。水源付近に管理小屋を設置し、水道と苗木の双方を維持管理している。

今年度は、コナッツ250本、ピリ1,000本の計1,250本を植林、第6回フィリピンパロンバナネス国際ワークキャンプにて植林実施

中国

CHAFS 甘肅省小隴山の長江・黄河上流のコミュニティによる環境保全植林モデル事業 78,100本

【甘肅省天水市】

【植樹】

白川松 (19,100本)、油松 (28,000本)、遼東なら (2,000本)、胡桃 (3,000本) コノテガシワ (24,000本) 合計 76,100本

【基盤整備】パイプライン設置 マルチングフィルム設置

【その他】地植え、植樹作業、保育、灌漑、マルチング、枝切り

技術研修

【日本側の活動】専門家派遣

前年度同様、植樹の維持管理は、四川地震の被災者を中心とした小隴山地域の地元住民により行なわれている。昨年度との大きな違いは、小隴山区域にも大きな高速道路が完成し(視察時は開通式を待つのみとなっていた)、観光を通じた、地域の復興にも力を注いでいることが理解出来た。被災者の移住も完了し、生活が安定してきたことから、これまで胡桃植樹によるオーナー制度のみが生活の糧であった人たちが、新たに農業を始める人、山林労働などに出る人、また政府の補助による退耕還林政策による労働に出るなど、収入面、将来の設計などにもある程度目処がたってきた。

昨年度同様、本年の植林は山上の崩壊危険区域に対する治山的な植林をすることを目標としており、小隴山の谷筋をまたいだ形の両岸の急斜面と谷線に沿った扇状地、尾根線下部の平坦地が本年の植樹地域であった。急斜面に植栽孔を設置し、水が流出しないように、工夫がなされており、着実に木々が育っていた。

昨年度から強化してきた研修も定着し、枝切り、病虫害予防、マルチング、胡桃の栽培も着実に根づいており、植樹、灌水、維持管理などにしっかりと活かされていた。胡桃のオーナー制度の浸透から植樹の研修も根付き、植樹の維持・管理にも活かされていた。本年度も同様の研修が継続されており、地元の人たちの積極的な参加が見られた。また、本研修は村人同士の情報交換の場にもなっており、地元の雇用情報などが交わされており、技術研修だけの地元の情報交換などが有効に行われていた。

課題としては、トウモロコシ畑と胡桃が混植されているものが見受けられており、現地の生産性と市場性にもよるが、水源涵養と土砂流出の観点から混植あるいは交互の植栽で生育環境を保全していかねばならないと感じた。トウモロコシと胡桃の市場性のバランスが課題であると思う。

本年度にて本事業は最後であるが、今後も交流キャンプなどを実

・ 開発支援事業

施し、地元の人たちと交流を深め、地元の環境意識の向上に努めていきたい。

平成 22 年度日中民間緑化協力委員会資金を受ける。

ネパール

AFS-Nepal コミュニティー フォレスト 100 本

【ルンビニ県ノールバラシ郡ピトゥリ村】

環境を守るためには、村の住民たちが自分たちの手で森を守る考えがあるかどうか深く左右される。地域がコミュニティーフォレストに取り組んでいることで、苗木の定植に大きく寄与している。果実販売による収入を現地の学校の運営費、村の必要経費に当てることも、もう一つの目的である。

今年度は、水源涵養林のポカイノを植林した。

AFS-Nepal コミュニティー フォレスト 2,200 本

【バグマティ県バクタプール郡スダール村】

地域住民の手による環境保全を目的とした植林活動を、引き続き実施。コミュニティーフォレストとして地域の森作りを以前より実施しているが、一種類の木の植林により森の植生が異常な状況になっている。森再生を目的に村人と地域の学生及びピトゥリ村の学生の参加による植林を実施。平野地域の子どもが山間地の植林を経験できる学習の機会ともなった。ネパール自生のロブシーの苗木 1,500 本、葉草として用いられるドゥビサツラ 700 本の計 2,200 本植樹した。

第 38 回ネパールワークキャンプで植林実施

AFS-Nepal 育苗センター 76 本

【ナラヤニ県チトワン郡ラトナナガル市 5 地区】

「朝日読者の森」として森林破壊が著しいネパールにて 2001 年より森作り事業を実施。5 年計画の終了後、農村地域に貢献できるセンターづくりと地域の森林面積の復活を目指して AFSランドと称したエリアにアグロフォレストリーを実施。維持管理と共に、ネパールでの植林活動を広げる為に、今年度はベツ、ハッロ、竹などの苗 1,800 本を育苗。各植林プロジェクト地の苗木としても利用。モデルケースとなる地域農民との連携による農園づくりを目指し更なる計画を調整中。現地のコミュニティーフォレストエリアに 76 本植林を行った。朝日新聞社 朝日会の継続支援により実施。

2 . 環境改善・国際グリーンスカウト

国際グリーンスカウト(GS)運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全」に取り組む市民活動である。1986 年に本会が提唱。

アジアにおける「理解と協力と連帯」の輪を広げる実践活動の一環として、AFS の海外ネットワークを通じて国際的に 16 ヶ国にて展開。アジア各国に草の根市民による環境保全活動を広げることを目的としている。

以下は、各国(日本を除く)の活動状況。

ネパール

AFS-Nepal 小学生環境セミナー 7 校

【バクタプール郡スダール村、カブレ郡トゥクチャ村、カトマンズ郡チュニケ

ル村、ノールバラシ郡ピトゥリ村】

GS 活動を行う小学生対象の環境セミナーを 3 回実施。その 1 回目は 8 月にスダール村にて地元の小学校 2 校と平野部のピトゥリ村より 3 校の計 5 校の小学生が集合し、合同での植林作業にあわせ各学校の環境活動の成果と今後の理想の学校と地域作りに関して発表を実施。各学校の環境リーダーとしての必要な要素について、と、「木」を主人公にした紙芝居により我々が植えた木が大きく成長できる環境づくりのための 8 つの提案を紙芝居を通してレクチャーおこなった。

カリカ小学校(スダール村 会場校)、マハンカル小学校(トゥクチャ村)、スリーサンティ小学校、ラズラトナ小学校、ピトゥリ小学校(以上 3 校ピトゥリ村)小学生各校 4 名

2 回目は 12 月にピトゥリ村にて実施。8 月とは反対に山間地の子どもが平野の状況を学ぶと共にピトゥリ村にて 8 月以後どの程度の活動を実施できているかを各学校より発表してもらおうと共に、ピトゥリ村の小学校での取り組みを各学校子どもたちが案内人となり、他校の参加者に説明して見学を行った。最終的には学校で行う目標を一つ決めそれぞれの学校に持ち帰り、その目標の提案理由を学校全体でシェアし合い、どのようにその目標に向かって活動を行うかを学校で決めることとし、参加した学生がそれぞれの学校にてリーダーとして活動を実施できるように促した。ピトゥリ村よりは昨年引き続き既存参加校以外の 2 校の小学校が加わり、今後積極的な活動が展開されることが期待される。

カリカ小学校(スダール村)、スリーサンティ小学校(ピトゥリ村 6 地区・会場校)、ラズラトナ小学校(ピトゥリ村 4 地区)、ピトゥリ小学校(ピトゥリ村 9 地区)、カリカ小学校(ピトゥリ村 4 地区)、サントゥ デビラストラヤ小学校(ピトゥリ村 1 地区)(以上 5 校ピトゥリ村)小学生各校 4 名

3 回目は、3 月にカリカ小学校(スダール村)にて実施。カリカ小学校は今までの積み重ねが少ないために 1 校対象で実施。1 年生から 8 年生までの有志 70 名参加。12 月のセミナーで決めた目標の実施方法を探り具体的な方策を決めた。あわせて、今までの環境セミナーで学んできたリサイクルに関して、知識だけでなく子ども自身でできるリサイクルとして日本で実施している牛乳パックより竹とんぼ作り、飴の包み紙より人形作りを実施し、実際に子どもたちができるリサイクルのヒントになる指導を実施した。

AFS-Nepal グリーンスカウト ローカルGS組織づくり

【バクタプール郡スダール村、カトマンズ郡チュニケル村、ノールバラシ郡ピトゥリ村】

農村開発プロジェクトを実施している地域において、村の青少年を中心としたローカル GS づくりを奨励。環境改善に向けての方法を考え、行動できるように促している。

ピトゥリ村 GS は、地域の子どもたちが小グループを作り、環境美化推進運動を実施。住居周辺道の清掃活動をスリーサンティ小学校、ラズマンディル小学校、ピトゥリ小学校の生徒と地域住民が協力して行う。

チュニケル村 GS は、コミュニティーフォレスト活動を通じ子どもたちが地域の環境保全に繋がるとし、毎年 GS として植林活動を実施。

スダール村 GS は美化活動の取り組みと地域の環境活動への参加としてコミュニティーフォレストにて植林を実施。地域のクラブ的な活動としてリーダー育成をも目指している。

フィリピン

・開発支援事業

AFS-Virac, Catanduanes 有用微生物の活用と有機土壌改良を中心とした環境保全セミナー

【カタンダゥアネス州カラムラン町パロンバナス島】

2007年から始まったパロンバナス島での植林活動をきっかけに、環境についての住民の知識と意識を向上させるために、環境保全セミナー・ワークショップを毎回開催。

地元小学校を会場にし、漁業、農業を行う地元住民女性を中心に、教員、生徒を対象として行っている。

今回は、砂地の多いパロンバナス島において、野菜や果樹、苗木を育てるための方法として有機農業と、そして有用微生物群(EM菌)の活用法とした水質浄化、土壌改良の方法も併せて実践を踏まえながら伝えた。

これまでの成果として、環境に対しての住民の意識の向上が年々見られている。

ASI グリーンスカウト活動紹介プログラム

【リサル州アンゴノ町、ピナゴナン町、カルドナ町、カピテ州ダスマリネス町バリバラン】

16歳以上のグリーンスカウトメンバーの地域代表(リーダー)20名を対象として、自己能力開発・環境保全セミナーとワークショップを10のカテゴリー別を実施。グリーンスカウト地域代表メンバーはその学んだ内容を地域に持ち帰り、年下の子どもたち平均10名に対し同様のプログラムを実施した。グリーンスカウトの活動の意義・活動が広まった。

KALIPI 財団 環境意識啓発

【ヌエバエシハ州サンレオナルド】

1. 年間を通じて、環境に関する世界中の記事をAFSニュースレターとしてAFSメンバーに発信。また併せて、政策提言も行っている。
2. アースデイには、地方行政と学校に呼びかけを行い、温暖化ガスの排出を少しでも少なくするために、1時間の消灯を行った。
3. 地方行政や団体に対して、KALIPI財団が環境についてのコンサルタントの無料提供を行った。

AFS-UMD グリーンスカウト ローカル組織づくりとゴミ問題管理プロジェクト

【ソルソゴン州マトノック町】

16歳以上のグリーンスカウトユースメンバーの地域代表を対象として、自己能力開発・環境保全セミナーとワークショップを10のカテゴリー別に4つの村で実施。

また、環境問題に意識を向けるために、ゴミ問題に取り組みゴミ箱の設置や、川や海の清掃活動を実施し、ゴミ分別・リサイクルなどを学んだ。

AFS-UMD グリーンスカウト 環境保全プログラム

【ソルソゴン州マトノック町】

台風が頻発するこの地域において、海岸沿いにマングローブの植林を行うことで、自然災害の危険から身を守ることが可能になります。今後のマングローブ植林活動の前段階として、漁師を中心とした住民を対象に、マングローブ生態系に関するセミナーを開催し、環境保全に対する意識の向上を目指した。

3. 再生可能エネルギー資源活用・普及

ネパール

AFS-Nepal バイオガスプラント設置及び普及事業 90基

【バグマティ県、ルンビニ県】

人口増加と同時に森林破壊が進み、その歯止めとしての代替燃料の確保が急務となってきている。資源が少ないネパールでは、身近にある牛糞を利用したバイオガスの普及が、確実な燃料確保につながることを期待されている。農村に住む人々の生活改善(薪採集を担っていた子ども、女性の重労働の軽減、薪の煙で目や肺を患っていた女性の健康の改善、発酵後のスラリーは農業に欠かせない堆肥となる)にも大きく寄与している。

また、講習会を実施することで、住民のバイオガスプラント設置普及に対する理解と環境問題への関心に繋がっている。結果として近隣村にも理解が広がってきている。

効果として、1基の設置につき、薪の年間使用量と1世帯当たり4,000Kgの使用量の内70~90%削減することができる。このことは、国土の30%台にまでに減少(以前は70%)した森林面積の回復にも繋がる。同時にトイレの併設も進み、農村地区での衛生向上にも繋がっている。効果は広がり、設置希望が年々増大している。

・バクタプール郡スダール村	36基
・バクタプール郡バゲソワリ村	12基
・カブレ郡トクチャヤ村	39基
・ノールバラシ郡ビトゥリ村	3基

内、87基は平成22年度国際ボランティア貯金に係る寄附金の配分を受ける。

【2011年度 計90基設置 累計1,044基設置】



バイオガスサポートプログラム実施(ネパール)



パロンバナス島植林(フィリピン)

- E . サイクル・エイド事業

1 . サイクル・エイド

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう！」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業である。

大阪府内の放置自転車の数は、年間 50 万台に上り、うち約半数は引き取り手がないために大きな社会問題、環境問題となっている。一方、アジアやアフリカでは学校の数で十分でないため、長時間歩いて学校に通うか、遠すぎるために通学できない子どもたちが数多くいる。

こうした子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与し、国際交流の絆を深めることをこの事業の目的とする。放置自転車を修理、再生し、リデュース・リユース・リサイクルの好循環によって、大阪府内の環境負荷を軽減し、資源循環型社会に向けて地球環境に優しい自転車の活用を促進することを目指す。

2005 年度より、社団法人アジア協会アジア友の会が事務局として事業を実施。大阪府などがメンバーとなったサイクル・エイド支援会議を設置し、事業を円滑に進めていくようサポートしている。

(1) 自転車の寄贈

自転車の提供 計 360 台(前年度繰越分 10 台 計 370 台)
 放置自転車を収集するために、府内各市町村への協力呼びかけを行い、今年度は下記の 5 市から協力を得ることができた。回収された自転車は各市で選別、修理、再生後に泉大津市にある堺泉北港へ運搬され、コンテナに積み込まれ、海上輸送で寄贈先に送られた。

堺市 80 台、八尾市 100 台、阪南市 100 台、
 泉大津市 50 台、高石市 30 台 保管分 10 台

平成 23 年度は合計 370 台の自転車が、タイに寄贈された。
 事業開始以来、アジア、アフリカの 9ヶ国に合計 26,408 台の自転車を贈ることができた。

タイ 370 台(2011 年 12 月)

タイ 330 台

2011 年 12 月にタイに 370 台の自転車が贈られた。
 ウィエンサー郡の 20 の村に自転車が贈られた。

自転車はタイの人々に下記のように役立てられている。

- 多くの学生を助けること(2~8 km)
- 貧しい家族を助けること
- 国内の輸送のコストを減じること
- 地球温暖化に対してキャンペーンすること
- 省エネルギーの促進
- ローカルの観光旅行の促進
- 自転車をを使用することは旅行する健康な方法
- 自動車またはオートバイで旅行を部分的に代用すること

- TAFS が活動を実行するのに有用なこと
- タイで AFS のネットワークを拡張することを支援すること
- また、環境保全の日プロジェクトのために自転車のキャンペーンが行われた。2012 年 3 月 5 日の午前 10 時に地球温暖化(タイのグリーンスカウト)プロジェクトに対するサイクル・キャンペーンの活動が行われた。キャンペーンの案内は 1,000 人の村民や地元マスコミおよびラジオ放送に届けられ、約 500 人の参加者があり、大きなグループで 15km のルートに沿ったサイクリングが行われた。

	受益者	数	%
1	チェンライ		
	丘陵地域に住み町の学校に通う子ども		
	チェンライ合計	35	9.40 %
3	ナン		
	ウィエンサー郡の学生と農夫	87	
	ナンの村人	47	
	ウッタラディットの村人	33	
	チェンライの村人	33	
	ナン合計	200	54.05 %
3	有機農業組合		
	- コーンケン県	9	
	- チョンブリ県	2	
	- チュムホーン県	6	
	有機農業組合	17	4.5 %
4	ナン周辺地域		
	- ナン近隣の村々	118	30.1 %
	Grand Total	370	100%

さらに 11 日の間のナンからチョンブリ県へ約 1,033km の自転車ラリー「環境保全および資源削減運動」にもタイ サイクル・エイド委員会として協力した。

多くの貧しい村の人達を助けることができ、また、環境保全の活動をサポートすることができた。

■堺大魚夜市

日程: 2011 年 7 月 31 日(日)13 時 ~ 21 時

場所: 大浜公園

主催: 堺大魚夜市実行委員会

[堺市自治連合協議会、堺商工会議所、(社)堺高石青年会議所、(社)堺観光コンベンション協会]

後援: 堺市ほか

来場者数: 約 240,000 人

<内容>

堺 700 年の歴史、伝統文化の継承、市民・企業・行政の協働、地域社会との共生、世代間の調和と交流、堺の伝統産業の PR をコンセプトに毎年 7 月 31 日に開催されている堺大魚夜市では、堺大魚夜市実行委員会の多大な協力のもと、ブース出店を行った。事業開始当初より、自転車の町として再生自転車を数多く提供いただいている堺市の市民の方に本事業の紹介、説明を行い、理解を深めた。また、サイクル・エイド事業の活動紹介を行うとともに、アジアの民芸品、飲食の物販を行い、海上輸送への協力を得ることができた。

・開発支援事業

■サイクル・エイド募金箱の設置

再生自転車の海外輸送費を確保するため、大阪府パスポートセンターに募金箱を設置し、府民に寄付の呼びかけを行った。

日程：2011年4月1日(金)～2012年3月31日(土)

場所：大阪府パスポートセンター本所

■大阪家庭裁判所「自転車盗等被害を考える講習会(月例)」に於いて、サイクル・エイド事業の啓発活動を実施

2011年4月～2012年3月 月1回(第2火曜日予定)

場所：大阪家庭裁判所

<内容>

自転車盗難に関わった青少年とその家族を対象に、自転車の大切さを伝えるサイクル・エイド事業の啓発活動を実施。月に1回、サイクル・エイド事業で自転車を届けている子どもたちを取り巻く状況や自転車を贈った後の生活の変化を伝えることによって、放置自転車や自転車盗難防止の意識付けとともに、青少年の健全な育成につとめた。



自転車配布時の様子(タイ、ナン県にて)



自転車を配布したところ(タイ、ナン県にて)



スリランカにて完成した井戸の除幕式
(サルボダヤ会長 アリアラトネ博士の80歳を記念して)



ヤギの牛乳における収入向上支援(モンゴル)



ラオスにおける井戸建設
(JAFS 枚方ラオス・スタディーツアーにて)

資料

1. ワークキャンプ

国際ワークキャンプを通じて本会の海外プロジェクトを支援すると共に、現地での共同作業を通じて国際理解・文化交流の機会とし、本会の活動に対する理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目指し、毎年アジア各国で実施している。

本年度は4カ国で11回に亘って実施し、延べ187人が参加した。以下、実施日時順による。

1. イオン労連第17回カンボジアワーキングキャンプ(カンボジア)

期間:2011年5月24日～5月28日
場所:タケオ州トリアン郡ロネアム地区プレイ・パ・エイ村
参加者:22名
内容:井戸建設、交流

2. イオン労連第18回カンボジアワーキングキャンプ(カンボジア)

期間:2011年5月31日～6月4日
場所:タケオ州トリアン郡ロネアム地区ソフィ村
参加者:24名
内容:井戸建設、交流

3. イオン九州労組・マックスバリュ中部労組カンボジアワーキングキャンプ(カンボジア)

期間:2011年6月14日～6月18日
場所:タケオ州トリアン郡クババ地区タスレン村
参加者:20人
内容:井戸建設、交流

4. イオンリテールワーカーズユニオンカンボジアワーキングキャンプ(カンボジア)

期間:2011年6月27日～7月2日
場所:タケオ州トリアン郡クババ地区コーコー村
参加者:30人
内容:井戸建設、交流

5. 第38回ネパール国際ワークキャンプ (ネパール)

期間:2011年8月4日～8月15日
場所:バグマティ県バクタプール郡スダール村 カブレ郡トゥクチャ村
参加者:5名
内容:植林、子ども環境セミナー参加、子どもとの文化交流会、バイオガスプラント設置等農村プロジェクト視察

6. 第8回京都暁星高校ワークキャンプ (フィリピン)

期間:2011年9月20日～9月28日
場所:パナイ島アンティーク州パンダン町
参加者:17名
内容:植林、環境セミナー、交流

7. イオン労連第19回カンボジアワーキングキャンプ(カンボジア)

期間:2011年11月15日～11月19日

場所:タケオ州トリアン郡ブランベイマム地区ドムナックレアチア村
参加者:21名
内容:井戸建設、交流

8. イオン労連第20回カンボジアワーキングキャンプ(カンボジア)

期間:2010年11月23日～11月27日
場所:タケオ州ドーンケオ郡ロカクラウ地区ソーチャン村
参加者:21名
内容:井戸建設、交流

9. 第39回ネパール国際ワークキャンプ (ネパール)

期間:2011年12月23日～2012年1月2日
場所:バグマティ県バクタプール郡スダール村
ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村
参加者:5名
内容:バイオガスプラント設置支援、子ども環境セミナー参加、小学校図書室建設支援、農村開発プロジェクトの支援、交流

10. 2012 情報労働組合連合会

フィリピン・カタンドゥアネスワークキャンプ (フィリピン)

期間:2012年1月12日～1月16日
場所:カタンドゥアネス島ピラク町カランボン村
参加者:18名
内容:井戸・パイプライン建設、プロジェクト視察、交流

11. 第6回フィリピン・パロンバナネス島 国際ワークキャンプ

(フィリピン)

期間:2012年3月27日～4月2日
場所:カタンドゥアネス島カラムラン町トイトイ村パロンバナネス島
参加者:4名
内容:植林、環境セミナー、交流

2. 海外プロジェクト視察

1. ネパール

期間:2011年4月17日～4月27日
場所:バグマティ県カブレ郡、カトマンズ郡、ノールパラシ郡ピトゥリ村、チトワン郡
視察者:熱田典子
内容:バイオガスプラント 2010年度実施確認作業、小学校での環境授業、井戸、植林プロジェクト視察

2. フィリピン

期間:2011年5月27日～5月31日
場所:マニラ市
視察者:村上公彦
内容:ASI CDコース修了式参加、AFS マニラ再開ミーティング

3. インド

期間:2011年6月10日～6月20日
場所:カルナータカ州ビジャプール地区、マハラシュトラ州ガッチロリ地区

・開発支援事業

視察者:村上公彦

内 容:コスモニケタン学園入学式・新学期参加、

4. フィリピン

期 間:2011年7月7日~11日

場 所:フィリピン・タバコシティ

視察者:村上公彦、橋本 隆

内 容:サイクルエイド支援自転車寄贈

5. ネパール

期 間:2011年4月16日~4月25日

場 所:バグマティ県カブレ郡、カトマンズ郡

視察者:熱田典子

内 容:バイオガスプラント・井戸・アジア里親の会支援校との打ち合わせ

6. ネパール

期 間:2011年8月4日~8月16日

場 所:バグマティ県バクタプール郡、バグマティ県カトマンズ郡

視察者:熱田典子

内 容:植林及び環境保全のセミナー、牛の銀行の管理、バイオガスプロジェクト視察及び普及セミナー実施

7. ネパール

期 間:2011年10月24日~11月2日

場 所:バグマティ県バクタプール郡、バグマティ県カトマンズ郡

視察者:熱田典子

内 容:バイオガスプロジェクト視察及び普及セミナー、アジア里親の会支援校との打ち合わせ等

8. スリランカ

期 間:2011年11月7日~11月10日

場 所:コロンボ

視察者:村上公彦

内 容:サルボダヤ アリヤラトネ博士 80歳誕生記念祭出席

9. インド

期 間:2011年12月23日~12月31日

場 所:バンガロール、ビジャプール

視察者:田中壽美子

内 容:日印友好学園コスモニケタン職業訓練学校視察、インドネットワーク会議

10. ネパール

期 間:2011年12月23日~2012年1月6日

場 所:ルンピニ県ノールパラシ郡、バグマティ県バクタプール郡、バグマティ郡カトマンズ地区

視察者:熱田典子

内 容:バイオガスプロジェクト視察、普及及び環境に関するセミナー、アジア里親の会支援校と打ち合わせ、学校支援

11. インド・タイ

期 間:2011年12月26日~2012年1月7日

場 所:インド=バンガロール、ビジャプール、ガッチロリ
タイ=バンコク

視察者:村上公彦、明見勝好

内 容:インド=プロジェクト評価、インドネットワーク会議
タイ=アジアアカデミー設立会議

12. インドネシア

期 間:2012年2月5日~2月12日

場 所:バリ、ジョグジャカルタ

視察者:村上公彦

内 容:インドネシア AFS 支部設立会議

13. ネパール

期 間:2012年2月19日~2月25日

場 所:バグマティ県バクタプール郡、バグマティ郡カトマンズ地区

視察者:熱田典子

内 容:バイオガスプロジェクト視察、普及及び環境に関するセミナー、設置作業状況調査

14. ネパール

期 間:2012年3月6日~3月13日

場 所:バグマティ県バクタプール郡、バグマティ郡カトマンズ地区

視察者:熱田典子

内 容:バイオガスプロジェクト状況視察、子ども環境セミナー
井戸視察、環境プロジェクトに関する打ち合わせ

15. ラオス

期 間:2012年3月9日~3月14日

場 所:ピエンチャン特別市サイセーター郡サイセーター村

内 容:茨木東ロータリークラブ寄贈井戸訪問

16. ラオス・タイ

期 間:2012年3月11日~3月19日

場 所:ラオス=ピエンチャン

タイ=ウドンタニ、バンコク

視察者:村上公彦、古賀 旭

内 容:ラオス=ネットワークセミナー準備視察

タイ=タイ グリーンスカウト大会出席

アジアフレンドシップ基金委員会出席

・開発支援事業



フィリピン、パロンパネス島植林ワークキャンプ



ネパールにおけるバイオガス支援事業



イオン労連カンボジアワークキャンプ



ラオスの職業訓練学校に建設されたトイレ



ネパール、バイオガスプラント建設ワークキャンプ



東日本大震災の被災者へメッセージを書いているところ
(ネパール・ワークキャンプにて)

・国際交流事業

- A . 人材交流・育成事業

1 . 奨学金支援

各自の専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく寄与するとみなされる若手の人材育成資金(奨学金等)を支援。本年度は、フィリピンのアジア社会科学院の国際社会開発夏期コース(2ヶ月間)に以下の4名のAFSメンバーの奨学を支援した。

- ・ ビジャラクシュミ・シン(インド)
- ・ プラナウ・クンパール(インド)
- ・ クリシュナ・ブラサド(ネパール)
- ・ フロリセル・ガデュケ(フィリピン)

2 . 海外ボランティア研修

アジア諸国との国際協力・理解と、市民レベルでの草の根ネットワークを広げていくことを目指し、海外経験を通して幅広い人材育成をおこなう制度として2000年度より実施。

2011年度は、1名の研修生が国内研修およびフィリピンで約2か月の海外研修を実施。以下のJAFS提携団体にて里親の会の里子調査及び環境プログラムに関するボランティア活動を行った。

研修生名:村上 由里子(大学生)
研修先:フィリピン アジア社会科学院(マニラ市)
AFS-UMD(ソルソゴン州)

3 . 日本語教師派遣

日本語を通して日本への理解とフィリピンと日本とのつながりを深めることを目的として、日本語教師ボランティアの派遣を実施した。

日本語教師名:中島 和子
実施場所:フィリピン パندان町
受入提携団体:AFS-Pandan
実施期間:4月14日~7月13日

海外訪問者記録

5月18日 フィリピン提携団体 AFS-Pandan
~5月23日 ネリ・レクトラ氏
ジェニー・コンデス氏
レイモンド・ガンボック
インド提携団体 ISSA
ジョン・ザカラリア博士

インド提携団体 Green Scout India
ブラザー・シン氏

2011年度社員総会、及び東日本大震災被災地視察のため来日



2011年度 ASI 奨学生(4名)



海外ボランティア研修生(学校にて授業)

- B . ネットワーク推進事業

1 . 国際会議

(1) アジア国際ネットワークセミナー

民衆の生活向上、特に、最貧困層の人々の基本的生存条件の確立に努力しているアジア各地の NGO との連携・交流を図るために毎年一回開催されているアジア国際ネットワークセミナー。

本年度はインドネシア、バリ島にて以下のとおり開催した。

【第 21 回アジア国際ネットワークセミナー】

開催期間: 2011 年 10 月 29 日～11 月 3 日

開催場所: インドネシア、バリ島、ディアナプラビーチリゾート

基本テーマ: 「一つなるアジアを目指して、理解と協力と連帯の輪を広げよう」

今回テーマ: 「災害における国際ネットワークのあり方」

基調講演: 「災害とは」

Indian Society for Social Action (ISSA)

会長 ジョン・ザカリヤ博士

Asian Social Institute (ASI)

教授 ジーナ・ヤップ博士

活動報告:

東日本大震災災害支援活動報告

アジア協会アジア友の会 田中壽美子

ジャワ島地震災害支援調査報告

Talenta Foundation ティティ・ハタヤンディ

第 2 回アジア・ユースサミット

アジア協会アジア友の会 横山浩平

AFS-Malaysia フランチェスカ・ウォン

Hossana Foundation ディマス・ディアラ

分科会

災害におけるネットワークの役割について

全体会議

AFS 夢基金におけるファンドの用途について

参加者: 39 名

主催 アジア国際ネットワークセミナー実行委員会事務局

財団法人 大阪府大阪国際交流財団

財団法人 大阪国際交流センター

社団法人 アジア協会アジア友の会

(2) アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自・連帯基金、「アジア・フレンドシップ夢基金」は、昨年度から日本国内外において積極的に動き始め、今年度はアジアからの基金が多く集められた。特に東日本大震災においては、フレンドシップ夢基金の効果が発揮され、これまで支援を行っていた地域や国々のうちから 6ヶ国 12 地域から合計 1,567,284 円が集められた。

この寄付金に加え、フレンドシップ夢基金においても、2011 年 4 月から、445,000 円が集められ、基金総計は、3,445,649 円となった。

各チャプターの地域活動への返金分も充てられ、着実に基金が成長している。この他にも 4 チャプターが新たにフレンドシップ会員として加わり、今後もこの動きは更に広まっていくこと期待される。

(3) アジア・ユースサミット

～地球の未来に向かって～持続可能な地域を目指して～

アジア・ユースサミット・プログラム「第 2 回アジア・ユースサミット」

【第 2 回テーマ】

「地域の中で子供たちの幸せを実現するために」

【事業期間】

2011 年 4 月 1 日～2012 年 2 月 24 日

【プログラム実施内容】

プログラム名称	震災ユースサミット
実施時期	2011 年 7 月 16 日～18 日まで
事業実施場所	肥後橋官報ビル 5F
内容	パネルディスカッション

ファシリテーター兼講師

成川隆文 大阪大学大学院環境・エネルギー工学部

講師

安達千李 京都大学人間総合学部 文化人類学専攻

黒島利沙 東北大学大学院 天文学専攻

保良康平 東北大学大学院 社会情報学専攻

上原千寿 東北大学 地域復興プロジェクト HARU

福本幸子 東北大学 地域復興プロジェクト HARU

参加者数: のべ 60 名

提言: 震災・ユースサミット 高校生への提言のまとめ

テーマ「震災の復興と持続可能な社会作りを目指して」

私たちの生活が、リスクの上に成り立っていることを知る

今回の震災で明らかになったのは、人間は自然の前には無力だということ。人類が文明活動を営む上では、常にリスクが付き物である。今後の持続可能な社会を構築する上では、自然への畏敬の念を持ちながら、自然と共存しながら人類が生存できる道を探ることが重要である。そのために、今回の震災の被害をしっかりと認識すること。地震と津波が、被災地を、被災地の人々をどれだけ苦しめたのかを知ることが大事である。

復興計画において、行政と被災者を結ぶ仲介の役割を担う

現在、震災からの復興計画が被災した各自治体において行われている。しかし、新規住宅地を高台移転するなどの復興計画案は、全て行政によるトップダウンで行われ、そこに被災住民、地元住民の声が反映されることはない。持続可能な社会とは、そのようなトップダウンによる無機質なお役所仕事で実現するものではない。真の意味の持続可能な社会とは、そこに住む人みんなが納得のいく社会が実現することにある。その意味で、この度の震災からの復興において、我々は被災者や被災地の地元住民の声を汲み取り、中

・国際交流事業

中央政府、行政へ伝える、仲介役としての役割を果たさなければならない。

常に関心を持ち続ける

震災から5か月。既に震災への関心が薄れてきている。私たちに必要なことは、この度の震災からの復興は10年、20年以上かかる非常に困難な作業だということ、震災が日本の歴史を変えるほど大きな出来事だったということを知ること。その上で、今高校生の君たちも、将来、社会の中心として、日本の復興に関わって行く必要が有ることを認識すること。社会に出て、復興のために具体的な活躍ができるその日まで、日常生活において、常に関心を持ち続け、被災者被災地に思いを届けることが大事。

「ほんまかいな」の精神で、情報を鵜呑みにしない

情報社会になり、簡単に情報を得ることが出来る一方で、情報の質が問題になっている。この問題は、特に3.11東日本大震災のような緊急時、災害時において、顕著になる。情報に接する際は、その情報を真に受けるのではなく、常に疑いながら、そして様々な情報源を確認し、情報の取捨選択を行う必要がある。また、その情報源も、日本のメディアだけでなく、世界の様々なメディアに高校生のうちから接し、様々な角度から、世界を、世の中を見れるようにすること。今回の震災当初も、被災地に迷惑になるのでボランティアに行くな、という言説があふれていたが、実際は被災地域ごとにその状況は異なっていた。ボランティアを大量に必要とする地域もあり、また一方で、ボランティアを受け入れる体制が整っていない地域もあった。災害時、緊急時ほど確かな情報を得ることが難しいことを念頭に置きつつ、常日頃から、「ほんまかいな」という精神で、疑いながら正しい情報を得るように努めるべきである。

高校生でも社会を変えられることを知る

当事者意識をもって、社会との関わりをもち、中央政府、行政の意思決定にコミットする。政府の批判をしている暇があれば、自分から動くこと。政治家に期待していても何も変わらない。自分たちが今「何」をすべきか、将来「何」をすべきかを、常に自ら考えて生きなさい。特にこれからの社会を担う高校生は、社会に出て活躍するその日までに、高い専門性を身に付け、学業からの視点で復興支援活動が行えるよう、力をつけること。

プログラム名称	第2回アジア・ユースサミット
実施時期	2011年8月20日～27日
事業実施場所	大阪国際交流センター 奈良市青少年野外活動センター 宮城県登米市及び 南三陸町本吉郡歌津
内 容	プレゼンテーション・プログラム ディスカッション、全体会議 アクションプラン、フィールドスタディ 交流

【参加者数】

日本側参加者	約150名
日本代表エントリー高校生	45名
大阪府立四條畷高等学校	1名
大阪府立松原高等学校	9名
大阪府立三島高等学校	5名
神戸市立六甲アイランド高等学校	4名
関西学院高等部	5名
関西学院千里国際高等学校	4名
神戸学院大学附属高等学校	6名
同志社香里高等学校	1名

羽衣学園高等学校	10名
日本側一般参加高校生	8名
一般参加者(大学生以上)	23名
ボランティア・スタッフ	74名
海外参加者	36名
各国代表エントリー高校生(大学生)	26名
コーディネーター	10名

【参加国】アジア13カ国及び日本
インド、インドネシア、カンボジア、スリランカ、タイ、中国、ネパール、フィリピン、マレーシア、モンゴル、パキスタン、バングラデシュ、ベトナム

【事業スケジュール】

- 8月20日(オリエンテーション)
- 8月21日(プレゼンテーションプログラム)
- 8月22日～23日(グループディスカッション・カルチャーナイト)
- 8月24日(全体会議・アクションプラン採択)
- 8月25日～27日
(東日本大震災被災地 宮城県登米市・本吉郡歌津地区訪問
竹中真コンサート・海外参加者による文化交流会)

【事業の成果】

当プログラムにおいて、下記のようなアクションプランが採択され、実践に向けて継続的な活動がアジア各地で行われている。

[1. 共通の解決方法]

- 各アクションプランに目標を定めること
- 実践に向けて自らのモチベーションを高めていくこと
- 各国の参加者及びリーダーたちとコミュニケーションを継続していくこと
- 実践計画を立てること
- 実践に向け、資金を集めること

[2. 地域の調査]

- 実践するためにより多くのボランティアに協力を得ること
- 各地域の人たちを集め、見出された課題解決に向けたワークショップなどを行うこと。
- 実践の結果及び課題のために選ばれた国の中でサミットを継続すること
- サミットの継続が困難であれば別の通信手段を考え、継続していくこと

[3. 年間報告の分析]

- 毎年、それぞれの実践した結果を報告にまとめ、比較、向上させていくこと。
- ディスカッションを通して、よりよい手法を見出し、実践を重ねていくこと

((財)地球産業文化研究所

愛・地球博成果継承発展助成事業)

(財団法人大阪国際交流センター助成事業)

2. 国際体験交流(スタディーツアー等)

アジアにおける本会海外プロジェクト見学やアジアの現状を実際に足を運び実感することを通じて、国際理解文化交流の場を広

・国際交流事業

く人々に提供し、本会の活動事業への理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目的とする。本年度は4ヶ国に7回実施し、述べ29名が参加した。

1. バングラデシュ・スタディーツアー (バングラデシュ)

期 間:2011年9月9日~9月17日

場 所:ポリシャル県アグルジョラ郡

参加者:5名

内 容:紙芝居試作のためのワークショップ、交流

2. 中国甘肅省天水スタディーツアー (中国)

期 間:2011年10月4日~8日

場 所:中国甘肅省天水市

参加者:3名

内 容:植林事業視察、交流

3. 中国新疆ウイグル自治区スタディーツアー (中国)

期 間:2011年10月28日~11月3日

場 所:ウルムチ、敦煌、トルファン、ピチャン

参加者:9名

内 容:アナディアル病院支援、文化体験、交流、世界遺産の見学

4. ネパール スタディーツアー (ネパール)

期 間:2011年11月8日~11月17日

場 所:カトマンズ、ピトゥリ村、ルンビニ、ポカラ、チュニケル村、カトマンズ

参加者:7名

内 容:里子訪問と教育現場の視察、子ども達との交流、スリーサ
ンティ小学校図書館開所式参加、世界遺産の見学

5. JAFS 枚方 ラオス・スタディーツアー (ラオス)

期 間:2013年1月20日~27日

場 所:ラオス、ボリカムサイ県、ピエンチャン

参加者:10名

内容:寄贈井戸及びラオスプロジェクト視察、交流

6. バングラデシュ・スタディーツアー (バングラデシュ)

期 間:2012年2月24日~3月2日

場 所:ポリシャル県アグルジョラ郡

参加者:5名

内 容:完成した紙芝居の受け渡し式、視察、交流

7. ネパール・スタディーツアー (ネパール)

期 間:2012年3月6日~3月13日

場 所:バクタプル郡スダール村

参加者:2名

内 容:バイオガス建設支援事業参加、環境セミナー
ホームステイ、交流



第22回アジア国際ネットワークセミナーにて(パリ)



第2回アジア・ユースサミット(グループディスカッション発表)



ネパール・スタディーツアーにおいて聞き取り調査

生活支援事業

- A. 災害等罹災者支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

日本

JAFS 東日本大震災緊急支援事業

【宮城県本吉郡 南三陸町歌津地区】

2011年3月11日に発生した東日本大震災。東北地方3県(岩手県・宮城県・福島県)では、死者1万5854人、行方不明者3,155人という甚大な被害をもたらした。

本会では、これまでの海外における災害支援活動の経験から、支援の手が届きにくいであろう、幹線道路・高速道路から離れており、主要漁港でないが被害が甚大な沿岸部である南三陸町を支援対象地と定め活動を開始した。

初動調査、炊き出しをはじめ、現地のニーズに合わせたきめ細やかな支援活動を多くの方の支援を頂きながら継続して活動を行ってきた。

支援活動内容

現地ニーズ調査

・南三陸町歌津地区 32ヶ所 (17行政区・仮設住宅15ヶ所)
5,030名対象

食事提供

・炊き出し(1日200食×3回 計24,400食提供)

物資提供

- ・食糧(7,200食分)・衣料(2,659着)・生活必需品・自転車等の物資配布
- ・生活スターターキット配布 (仮設住宅や在宅避難者対象700セット)
- ・寒さ対策キット配布 (仮設住宅や在宅避難者対象580セット)
- ・共有物置設置 (仮設住宅9ヶ所)
- ・就業支援 (テント10張り)
- ・文化継承支援 (獅子舞保存会への楽器支援)
- ・職場環境改善 (農協・漁協・行政等資料棚等の設置)

プログラム開催

- ・足湯プログラム
- ・子ども対象のサポートプログラム (学習支援・スポーツ交流・絵本や紙芝居の読み聞かせ・料理教室)
- ・アジア交流プログラム(ピアノコンサート・アジア13ヶ国の文化紹介)
- ・子ども会支援 地域親子旅行
- ・花見会、桜の木 記念植樹
- ・味噌づくりプログラム(のべ76名参加 30世帯分900kg製造)
- ・巨大絵画

・仮設住宅 懇親・交流プログラム

情報提供

・情報紙「桜通信」の発行(2011年度は、vol.35号まで発行。各700部発行、南三陸町の地区、仮設住宅等の48ヶ所に配布)
本会ホームページから閲覧可能

地域復興

・地元の伊里前商店会の復興と支援

現状

復興の兆しが見えたとはいえ、南三陸町では、いまだ多数の人が職場や仕事、自宅作業場、加工場などを失ったままの状態が続く、収入源確保が急がれている。

今、必要とされているのは、一時的な支援でなく、生活再建に向かうための経済及び生産活動が実践できる場の支援である。

本会は、売るものを作り出す加工場「石泉ふれあい味噌工房」の設置と、売る場所としての地場産品直売所「みなさん館」の設置を行っている。

これにより、地域全体の生産及び、経済活動を活性化させる仕組みをつくと同時に、地域の人たちがここで交流・対話し、コミュニティの再構築につながる場づくりでもある。

本会の海外プロジェクトと同様に、現地の志をもった人たちが中心となり、本会が調整・協力をしながら運営組合・協議会をつくり、管理運営を行っている。地場産品にこだわった新鮮で安全で安心な食品を提供していく。直売所「みなさん館」においては、「南三陸のタカラ」をテーマに、次の販売を予定している。

- ・山・里のものとして、新鮮野菜や南三陸米、味噌や漬物などの農産物加工品など
- ・海のものとして、わかめや鮮魚、昆布巻などの海産物加工品など
- ・ほかにも、手作りの特産品、工芸品、オリジナル商品

今後は、インターネット販売なども考えており、東北・宮城とのつながりを強固に、引きつづき支援活動を行っていく。

また、将来的に自立した形で、今回の支援活動が現地に役立てられるように、登米市の「NPO 法人故郷まちづくりナイン・タウン」と協力をしながら、南三陸町民を中心とした組織「夢未来南三陸」を立ち上げ、活動の中心を担える仕組みづくりをしている。

(認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム支援事業)
(赤い羽根共同募金支援事業)

現地派遣メンバー

・延べ人員: 116名

生活支援事業

登米市社会福祉協議会 協力メンバー

・延べ人員： 153名

街頭募金

・ボランティア参加延べ人数： 333名
 ・実施箇所： 17ヶ所

JAFS事務局の後方支援

・ボランティア参加延べ人数： 229名
 ・支援物資の調達や仕分け、整理、積み込み作業
 ・物資管理などの事務作業

チャリティーコンサート

・実施箇所： 5ヶ所

JAFS 台風12号被災地支援事業

【和歌山県新宮市・田辺市】

2011年9月2日から4日にかけて、台風12号がもたらした記録的な豪雨は、和歌山県・奈良県に甚大な被害をもたらした。

本会が28年に渡り、自然環境教育「土と水と緑の学校」で関係をもってきた和歌山県新宮市においても土砂崩れによる被害は大きく、緊急支援活動を行った。

支援活動内容

- ・瓦礫撤去
- ・物資配布
- ・泥の掻き出し
- ・被災家屋の整理
- ・土と水と緑の学校の流失した倉庫の片付け

現地派遣メンバー

・延べ人員： 40名

TAFS タイ大洪水被災者支援

【タイ、チョンブリ県】

2011年7月のモンスーン期に発生した大量の降雨により、タイ中部の河川が氾濫した。その後起こった台風が降水量を増加させ、タイのアユタヤ県(工業地帯)や首都バンコクなどに洪水が流出し、大きな被害を出した。2011年12月23日に洪水の水がすべてひき、終息宣言が出された。被害総額は東日本大震災、阪神淡路大震災、ハリケーンカトリーナに次ぐ、第4位、日本の企業にも大きなダメージを与えた。本会は、浸水したバンコク南部のチョンブリ県のシェルターに物資配布を行った。

支援内容

物資配布： 衛生グッズ(石鹸、ティッシュ)、扇風機など



桜通信第一号(35号まで配布している)



桜通信の取材を行っている登米事務所のスタッフ



味噌の仕込みのプログラム(東日本大震災)

・普及啓発事業

- A . 啓発教育

1 . 本部活動

(1) チャリティープログラム

JAFS チャリティーバザール

今年度も、恒例になっている春と秋の JAFS チャリティーバザールを JR 住道駅前北側のデッキ広場で開催した。

大東市の市報を通じた広報により出店を通じて本会活動を知る良い機会となった。今回は、東日本大震災の被災者支援のためのチャリティーバザールとして開催した。今後は、さらに多くの会員や地元の方が様々な形で関わり、参加できるイベントに盛り上げていきたい。

<春のバザール>

日時:2011年4月29日(祝)10:00~16:00
出店数:46店 (53ブース)

<秋のバザール>

日時:2011年10月10日(日)10:00~16:00
出店数:40店 (52ブース)

(2) 国際理解教育講座

2002年度4月よりスタートした「総合的な学習の時間—国際理解—」。NGO が教育の場に入り、学校と相互理解・協力をはかりながら未来の人材を育てていく。今年度も NGO の役割や国際協力、環境保全の大切さを子どもたちに教室で直接伝えるべく、様々な国際理解教育活動を展開してきた。学校にとっては本会の国際理解教育講座が毎年の恒例化となりつつある。それぞれの市内に国際理解、関心が広がり、町ぐるみでの取り組みができることを期待する。

子どもたち個々の魅力が社会で生きること(社会参加=国際協力参加)へのきっかけづくりになることを目指す。

NGO 講師派遣 [のべ 18 校、2,957 名]

4月26日	関西外国語大学(40名) 「国際協力の現場から」
5月15日	近畿大学(101名) 「国際ボランティア事例研修、海外の現場より ネパールにて農村開発支援はなぜ必要か」
6月1日	近畿大学(101名) 「国際ボランティア事例研修、海外の現場より フィリピンにおける地域開発について」
6月6日	堺市立原山台東小学校(72名) キャリア教育「アジアの子どもたちの生活と水」
6月14日	堺市立原山台小学校(47名) キャリア教育「アジアの子どもたちの生活と水」
7月14日	大阪府立佐野高等学校(81名) 「アジアの子どもたちの生活と水」
7月15日	大精協看護専門学校文化人類学特別授業

	「ネパールの状況と保健事情(40名)
10月14日	大阪経済大学 (30名) 「JAFS のアジアにおける活動とその展望をネパールの活動よりみる」
10月27日	大阪府立藤井寺高等学校(677名) 「東日本大震災 復興支援の現場から」
11月24日	大阪府立藤井寺高等学校(305名) 「東日本大震災 復興支援の現場から」
2012年	
1月18日	吹田市立五月が丘児童センター(30名) 「東日本大震災 復興支援の現場から」
1月19日	大阪市立瑞光中学校(251名) 「NGO の仕事と JAFS の活動 そしてネパールの子どもたちの生活と私たちの暮らし」
2月9日	大阪イブニングロータリークラブ(14名) 「復興支援の現場から」
2月10日	堺市立大仙小学校 (78名) キャリア教育「アジアの子どもたちの生活と水」
2月14日	堺市立大仙西小学校 (70名) キャリア教育「アジアの子どもたちの生活と水」
2月22日	西宮市立甲陵中学校 (900名) 「井戸贈呈とフィリピンの水事情」
3月4日	登米市の市民活動を考える会 (20名) 「NGO の参加型手法」
3月14日	大阪府立芥川高等学校(100名) 「自然災害時における JAFS 活動」

授業受け入れ [のべ 2 校 38 名]

6月21日	大阪府立松原高校 (15名) 「国際理解テーマ発表会」
8月24日	大阪市立灰塚小学校 教員受け入れ(23名) 「アジアの子どもたちの生活と水」

セミナー他 [1 回 20 名]

7月30日	国際理解教育指導者セミナー (教職員自主研修支援)(20名) 内容:ワークショップ「環境について」 於:JICA 大阪センター
-------	--

大学生インターンシップ及び実習受入 [3 校 10 名]

甲南女子大学 (1名) 「文学部多文化コミュニケーション学科インターンシップ・ボランティア体験演習」 7月~8月の間で、60時間以上の実習を行った。今年度は、「第2
--

・普及啓発事業

回アジアユースサミット」が実施されたためその準備及び開催におけるボランティア体験実習を行った。

7月8日インターン演習説明会

8月20～24日アジアユースサミット本番参加

神戸学院大学 (2名)

「総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科 ヒューマンサービス実習」

8月10日～12月10日の間で2名×24日の実習をおこなった。事務所での事務作業の補佐及びネットワークセミナー、チャリティーイベント、地区活動においての実習をおこなった

7月2日 実習オリエンテーション

8月10日～12月10日 実習期間

12月22日 実習受入機関意見交換会

大阪経済大学 (7名)

「経済学部地域政策学科「ボランティア論」 ボランティア実習」
夏期集中講義「ボランティア論」の体験実習の一環としてのボランティア実習の受け入れを計3名行う。

8月16日・17日 2日間 2名

8月29日・30日 2日間 1名

「経済学部「国際協力とボランティア」体験実習」

秋学期「国際協力とボランティア」の体験学習の一環としてのボランティア実習受け入れを4名行う。

11月3日～12月1日の期間1名あたり24時間以上の実習を行い、国際ボランティア団体の活動を理解する実習。

JAFS 事務局での事務補佐及び実習期間1回は地域での活動にも参加し、市民による国際協力団体の国内外における活動を実施。

10月14日 実習オリエンテーション

1月20日 「国際支援とボランティア」報告会 (今回不参加)

(3) インド文化センター講座

インド文化センターはインドの文化、思想の紹介を図り、日印間の相互理解と文化交流を促進し、インド文化愛好者相互の親睦を目的として1987年設立され、137回の例会が行われたが、2003年に閉会した。2005年本会の国際理解・文化事業の一環としてJAFSインド文化センターが新しく発足。インドの歴史、宗教思想、文化の多様性と奥行きを日本の方に楽しく親しく広く学べる場として、宗教、思想や芸術にくわえ、古代の占い、暦、天文学、数学、医学を取り上げている。引き続き、連続講座を予定していたが、講師等の都合により延期している。

(4) アジア文化理解講座

国際協力を一般の人が身近に感じられる催しを通じて、国際交流・支援活動への参加につなげることを目的としている。

アジア家庭料理教室

2011年度はアジア13地域21回のアジア家庭料理教室を行い、延べ371名の参加を得た。

会場:クレオ大阪西 調理室

4月14日	フィリピン 参加者18名 講師:ピーナ ジョードル 氏
5月19日、24日	ネパール 参加者35名 講師:ニルマラ タカリ 氏
6月23日、28日	沖縄 参加者32名 講師:運天 優子 氏
7月28日	イラン 参加者20名 講師:ナスタラン スミ 氏
8月23日	中国新疆ウイグル自治区 参加者25名 講師:グリミラ サビティ 氏
9月15日、27日	ベトナム 参加者35名 講師:ブイ タン ハン 氏
10月20日、25日	タイ 参加者29名 講師:水野 ブンルアン 氏
11月17日、29日	内モンゴル自治区 参加者30名 講師:劉偉 氏
12月15日	インドネシア 参加者29名 講師:シャフウイナ 氏
1月19日、31日	中国 上海 参加者31名 講師:沈 慧敏 氏
2月23日、28日	韓国 参加者40名 講師:孫 君子 氏
3月3日	スリランカ 参加者19名 講師:ラックスマン フェルナンド 氏
3月13日、22日	インド 参加者28名 講師:ナゼマ トラバリー 氏

(5) 会員大会

JAFS 設立30周年を機に始められたJAFS 会員大会。今年度は第4回を開催。第1部では2011年のJAFS 国内外の活動報告、様々な分野で顕著な活動をした個人・グループへの感謝状贈呈、第2部は講演 第3部は会員有志によるアトラクションを楽しみながら懇親会を行った。年1回の会員大集合の場として、参加者同士が交流し、お互いの活動を知ることができた。

2月18日 第4回JAFS 会員大会
於:パークホテル臨海
参加者:82名

(6) 国際協力ボランティア講座

JAFS 例会

海外プロジェクトを中心とした最新のJAFS 活動を会員および市民に紹介する機会を設け、会員拡大につなげるという目的で2008年10月より開始、シリーズ企画として実施している。特に学生・社会人の参加をねらい、時間や雰囲気を設定、学校・会社帰りに気軽に参加できるように企画。

(7) その他各種教養講座・研修プログラム

ワン・ワールドフェスティバル2011

1993年より毎年大阪で開催、今年19回目を迎えた。関西のNGO、

普及啓発事業

NPO、国際機関、企業などが参加し、国際協力・交流活動を幅広く紹介するとともに、参加者が地球規模の課題に対して行動するきっかけの場となることを目的としている。本会は実行委員会の一員として、活動紹介展示、民族料理屋台、企画プログラムにて参加協力した。

期間:2012年2月4日(土)、5日(日)

場所:大阪国際交流センター

来場者:17,000名(2日間延べ人数)

主催:ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会

内容:

NGO 活動紹介ブース

来場者を対象に活動紹介とワークキャンプ参加者、ボランティア募集の告知とアジアグッズの販売を行った。

民族料理模擬店出店

JAFS ファミリーグループ(スリランカ・サルボダヤ支援会、Paon)が協力し、アジアの料理(プンスオン、チャイ、ゴードンパロティ、アジア風から揚げ)を販売した。収益をアジアへの支援金にあてるとともに、食を通してアジアの理解を深めた。

地球のステージ「東日本大震災と国際協力」版 in 大阪

本会スタッフ横山浩平が上記プログラムのトークセッションにパネリストとして出演した。

2. 地区活動

各地域の地区世話人を中心に、本会の活動、理念の普及を計ると共に、アジアに「理解と協力で連帯」の輪をひろげることを目指し、多岐にわたり地域活動が行われてきた。中には20年近く活動を継続している地域もあり、益々の広がりを見せている。

第1エリア:大阪府北部 兵庫県東部

第2エリア:大阪府東部

第3エリア:大阪市内

第4エリア:大阪府東南部

第5エリア:京都府、滋賀県

第6エリア:武庫川以西の兵庫県

第7エリア:奈良県、東大阪、八尾

第8エリア:大阪府西南部

第9エリア:和歌山県、西日本

第10エリア:東日本

(1) エリア世話人会・全体地区世話人会

エリア世話人会 計11回実施 16名

定例会:毎月第3火曜日

各地区世話人の内より、エリア毎に委任されたエリア世話人(各エリア2~3名程度)で構成、エリア内の各地区世話人との情報交流、連絡調整を計り、事務局と地区のパイプ役をつとめる。また、地域活動における事務局事務(主として連絡、広報)を補佐を行なう。

全体地区世話人会 年2回

前期

日程:7月2日(土)10:00~15:00

場所:肥後橋官報ビル5F

テーマ:3.11と地域ボランティア活動

~届けよう南三陸町へ アジアに寄り添ってきた力を~

参加者:33名

実行委員:第4、6エリア地区世話人

後期

日程:11月18日(金)~11月19日(土)

場所:四季彩館

テーマ:『今だからこそ地区活動』

~魅力ある新たな地区活動を通してアジアへの支援を~

参加者:25名

実行委員:第2、3エリア地区世話人

(2) 地区世話人一覧

印 エリア世話人を兼任

エリア	地区	氏名
第1エリア	尼崎	天野澄子、黒谷侑子、桑田一夫
	池田	石原基義
	川西	粕谷 早苗
	吹田	橋本喜代子
	高槻	島貫清司、内藤肇、西川龍夫、三阪パニダー
	豊中	川良幸子、富田修、豊田祥二
	箕面	平瀬勢丈、平手清、三雲孝
第2エリア	門真	友松千草
	四條畷	小浜喜代子、小柳二郎
	大東	東村小夜子
	寝屋川	笠谷正博、根津千枝子、畠山ひろみ、船曳正之、松山博子、菅原直樹
	枚方	明見睦子、天野由紀代、佐々木実、船戸康夫、虫明慧悟、吉田幸子
	守口	大野賢信、真田朱美、二野英子
第3エリア	大阪市	有馬純夫、齋藤かおる、塩尻昭枝、寺岡源司、中島三栄子、福岡好嗣
第4エリア	河内長野	今井利子、白井春夫
	富田林	東野ゆかり
	藤井寺	森わか子
	松原	橋本末子、六車勝三
第5エリア	美原	田中千鶴子、中嶋啓子
	宇治	柿木良昭、杉林則子、田中紀代三、桜屋敷寛子
	亀岡	亀谷真佐美
	京都市	菅 洋子、宮本照佳
	野洲郡	深田陽一
	八幡	黒木隼彦、福川 肅

普及啓発事業

第6エリア	神戸・芦屋	井上登志子、白神博子
	三田	芝野照久、堀 正之
	西宮	大木洋子、岡田 昂、木崎義純、齋藤英美子、畠中美代子、平山隆史
	姫路	荒川鉄也、中尾和子、森 梢
第7エリア	生駒	青木美千代、落合能里子、奈蔵千代、山田いづみ
	奈良	高以良泰治、野口明英
	東大阪	岡田 一、坂上やよひ、南野紀美子
第8エリア	和泉	出原とよ、内野清子、中居順三
	泉大津	草加節男
	高石	佐藤満昭
	堺	幾谷真嬉子、久保幸子、小出裕司
第9エリア	新宮	奥田 勲、瀧野秀二、瀧野三重子、中西 洋
	田辺	小森茂之
	広島	宇田和博
	和歌山	長江佐和
第10エリア	静岡	富坂保雄
	多摩	広住道夫
	東京	市来伴子、高岸泰子
	名古屋	清水三千夫、壁谷桂子
	沼津	佐野令二

(2012年3月31日現在 / 計102名)

(3) 第1エリア

【尼崎】 (天野澄子、黒谷侑子、富松英二 **【池田】** 石原基義 **【川西】** 粕谷早苗 **【吹田】** 橋本喜代子 **【高槻】** 島貫清司、内藤肇、西川龍夫、三阪バニター **【豊中】** 川良幸子、富田修、豊田祥二、**【箕面】** 平瀬勢丈、平手清、三雲孝)

- 4月3日 ぞうすいエクスポ大震災のため中止 → 街頭募金
於: 豊中市駅前
- 5月5日 中山寺子どもフェスティバル参加
アジア子ども絵画展示、綿菓子等販売
於: 大本山 中山寺
- 6月25日 第1エリア世話人懇親会
於: JAFS 会議室 10名
- 11月9日 巨大アート展展示参加 見学 8名
- 12月21日 第1エリア忘年会
於: カラオケ トミー 5名
- 2012年1月 第1エリア新年会
29日 於: 霊松寺 50名
- 3月31日 ウォーカソン
コース: 勝尾寺 → 箕面の滝

(4) 第2エリア

【第2エリア合同】

第2エリアでは地域における国際支援の在り方、地域の意思統一、

親睦の為に話し合いや新年会などをおこない、雰囲気の上を回った。又 JAFS30 周年を機に緑化活動を継続してエリアで実施するために、実行員会「北河内緑とふれあう会」を立ち上げ地域との連携とエリア外よりの参加もつより3年目の活動を実施した。

- 7月31日 エリア懇談会
話: 村上事務局長
於: サンプラザ生涯学習市民センター
参加人数: 24名
- 1月14日 第2エリア理事・世話人新年会
於: 農園 杉・五兵衛
参加人数: 20名

< 植林実行委員会「JAFS 北河内 緑とふれあう会」 >

(会長: 佐々木実、副会長: 笠谷正博、虫明慧悟、小笠原 会計: 吉田幸子、書記: 天野由紀代)

- 5月5日 農園作業(草取り)
- 5月14日 農園作業(畝作り、起耕、草取り)
- 5月22日 農園作業(")
- 6月25日 農園作業(サツマイモ植付)
- 6月22日 農園作業(サツマイモ、ドングリの苗植栽)
- 7月9日 “市民の手で御殿山神社を紫陽花で彩ろう!”
【紫陽花 58 本植樹】
- 7月23日 農園作業(畝作り、起耕、草取り、水やり)
- 8月13日 農園作業(")
- 8月27日 農園作業(")
- 9月10日 農園作業(大根・蕪の播種)
- 9月24日 農園作業(畝作り、起耕、草取り、水やり)
- 10月8日 農園作業 (大根の間引き、サツマイモ(鳴門金時) 掘り起こし)
- 10月10日 住道バザー参加
- 10月16日 ひらかたNPOフェスタ模擬店参加
- 10月29日 “芋ほり&収穫祭”(芋ほり、親睦会)
- 11月12日 農園作業(残りの芋ほり、畝作り、起耕、草取り、水やり)
- 11月26日 農園作業(")
- 12月24日 農園作業(玉葱の植付、大根・蕪の収穫)
- 1月14日 農園作業(残りの大根・蕪の収穫)
- 1月28日 農園作業(玉葱畑の草取り、白菜収穫)
- 2月11日 農園作業(玉葱畑の草取り、追肥、防草シート張り)
- 2月18日 JAFS 会員大会(2011 年度の地域活動推進部門グリーンスカウト賞の授与)
- 2月25日 農園作業(ジャガイモの植付、ピオラの植付)
- 3月10日 農園作業(ハーブ園の整備、防草シートの張替え、排水溝の整備)
- 3月24日 農園作業(玉葱畑の草取り) 午後～総会
7~9月の間、週4回(その他の月は週1~3回)当番制の水やりをおこなった。

定例作業日以外の有志の作業が多々あり。
今年は、玉葱、ゴーヤ、ハーブ(バジル)、サツマイモ、大根、蕪を豊富に収穫することが出来た。

定例作業日以外の有志の作業が多々あり。

ブログによる広報及び活動状況報告を広く知らせた

<http://blog.goo.ne.jp/midori-hureai/e/f44a89b4c3725b8971be5efb7902b1>
79

普及啓発事業

【守口】(大野賢信、真田朱美、二野英子)

- 4月2～3日 支部研修会
 4月6日 守口支部例会(国際交流センター)
 4月17日 橋波商店街 FM 出店
 4月22日 土居商店街 FM 出店
 4月29日 本部 住ノ道バザー 出店
 5月11日 守口支部例会(守口国際交流センター)
 5月22日 橋波商店街 FM 出店
 5月28日 橋波商店街 100円市 出店
 6月1日 守口支部例会(守口国際交流センター)
 6月8日 守口支部 事務所前にてガレージセール
 6月15日 守口支部 事務所前にてガレージセール
 6月19日 橋波商店街 FM 出店
 6月22日 守口支部 事務所前にてガレージセール
 7月6日 守口支部例会(守口国際交流センター)
 7月17日 橋波商店街 FM 出店
 7月22日 地域の 夏祭り 接待
 7月30日 橋波商店街 夜店 出店
 8月3日 守口支部 暑気払い&例会
 8月9日 地域 (馬場町ピヨピヨクラブ)講演
 9月7日 守口支部例会(守口国際交流センター)
 9月11日 守口 だんじり祭り 模擬店 出店
 9月16日 京都全日空ホテル ロータークラブ 講演
 9月18日 橋波商店街 FM 出店
 9月24日 橋波商店街 100円市 出店
 10月5日 守口支部例会(守口国際交流センター)
 10月10日 本部 住ノ道バザー 出店
 10月23日 橋波商店街 FM 出店
 11月2日 守口支部例会(守口国際交流センター)
 11月6日 守口市民祭り 出店
 11月19日 ちびっこフェスタ 出店
 11月20日 国際交流フェスタ 出店
 12月7日 守口支部 忘年会
 12月14日 守口支部 事務所前ガレージセール
 12月18日 橋波商店街 FM 出店
 1月8日 餅つき大会
 1月10日 守口支部例会&大宮神社戎参り
 1月22日 橋波商店街 FM 出店
 1月28日 橋波商店街 100円市 出店
 2月1日 守口支部例会(守口国際交流センター)
 2月11日 守口支部 懇親会
 2月12日 橋波商店街 FM 出店
 3月7日 守口支部例会(国際交流センター)
 3月18日 橋波商店街 FM 出店
 4月2～3日 支部研修会
 4月6日 守口支部例会(国際交流センター)
 4月17日 橋波商店街 FM 出店
 4月22日 土居商店街 FM 出店

【四条囃】(小柳二郎、小浜喜代子)

地区単独の活動が難しい状況であった為、第2エリア合同プログラムに積極的に参加し、他地区の世話人との横のつながりを大切にしながら活動を行った。

- 7月31日(日) エリア懇談会参加
 話:村上事務局長

於:サンプラザ生涯学習市民センター

- 10月29日(土) 北河内緑とふれあう会 “芋ほり&収穫祭”参加
 1月14日(日) 第2エリア新年会参加
 於:杉五兵衛

【枚方】(吉田幸子、天野由紀代、船戸康夫、虫明慧悟、明見睦子、佐々木実)

- 4月6日(水) 第7回ティーサロン
 「パキスタンと故郷フンザ」
 話:シェール アハマド ジャン氏
 於:全労済大阪本部共済ショップ枚方
 参加:17人
 6月19日(日) 第25回ぞうすいの会
 「東日本大地震被災地支援活動の報告」
 話:佐々木実氏 菅原直樹氏
 於:津田生涯学習市民センター
 参加:21人
 7月31日(日) エリア懇談会
 話:村上事務局長
 於:サンプラザ生涯学習市民センター
 参加:24名
 8月11日(水) 枚方市主催「防災シンポジウム」
 パネラーとして佐々木実氏参加
 8月19日～9月13日 枚方市にJAFSの東日本震災支援の写真の
 展示
 8月20日(土)～21日(日) 『枚方まつり』模擬店参加(ネパ橋と共同)
 於:岡東中央公園
 9月9日(金) 第6回ティーサロン
 「ラオス管見」
 話:山崎道治氏
 於:全労済大阪本部共済ショップ枚方
 参加:19人
 10月15日(土)～16日(日) 『ひらかた NPO フェスタ 2011』模擬店参加
 於:岡東中央公園
 11月26日(土) 枚方市市民安全全部危機管理室主催「平成23年
 度地域防災推進員育成研修会」
 講師として佐々木実氏参加
 1月14日(日) 第2エリア新年会
 於:杉五兵衛
 3月4日(日) 第26回ぞうすいの会
 「ラオスを訪ねて～JAFS 枚方の寄贈井戸と
 村訪問の旅～」
 話:船戸康夫氏
 於:津田生涯学習市民センター
 参加:21人
 3月18日(日) 『むらの防災小学校～学んで守ろう わが身
 わがまち～』JAFS 東日本震災支援の写真の展
 示・南三陸町の物産販売・模擬店参加
 於:サブリ村野
 地区世話人会 4/6、6/19、9/9、2/8、3/27 開催
 枚方多文化フェスティバル(11/19)、ウォーカーソン(5/28、12/3)は雨
 のため中止

【寝屋川】(笠谷正博、畠山ひろみ、船曳正之、根津千枝子、松山博子)

- 4月18日 寝屋川地区世話人例会 於:市民活動センター

普及啓発事業

- 5月26日 寝屋川地区世話人例会 於:市民活動センター
 5月28日 枚方・寝屋川地区合同ウオーカソン
 枚方・穂谷里山めぐり (雨天中止)
 6月12日 第40回寝屋川ぞうすいの会 於:秦公民館
 「被災地・宮城県南三陸町での支援活動」
 話:吉田暢子さん・菅原直樹さん
 7月18日 寝屋川地区世話人例会 於:市民活動センター
 7月31日 第2エリア懇談会 於:サンプラザ枚方
 8月31日 寝屋川地区世話人例会 於:市民活動センター
 9月29日 寝屋川地区世話人例会 於:市民活動センター
 10月22日 寝屋川地区世話人例会 於:市民活動センター
 11月6日 第41回寝屋川ぞうすいの会 於:秦公民館
 「アオザイの国から・ベトナムの文化、日本のくら
 し」 話:ブイ・タン・ハンさん
 11月12日 市民活動センターふれあいフェスタ
 地区活動パネル展示、被災地支援活動パネル
 展示 於:市民活動センター
 11月23日 ふらっとねやがわまつり
 活動パネル展示 於:ふらっとねやがわ
 12月3日 枚方・寝屋川地区合同ウオーカソン
 枚方・穂谷里山めぐり (雨天中止)
 12月17日 寝屋川地区世話人例会 於:市民活動センター
 1月14日 第2エリア新年会 於:農園・杉五兵衛
 2月11日 寝屋川地区世話人例会 於:市民活動センター
 3月18日 寝屋川地区世話人例会 於:市民活動センター
 今年度は、以上の活動によりネパールにバイオガス プラント2
 基を寄贈することができた。

(5) 第3エリア

【大阪市】(有馬純夫、斉藤かおる、塩尻昭枝、寺岡源司、中島三栄子、平原榮子、福岡好嗣)

- 4月2日 ぞうすいの会
 ゲスト:シェル(パキスタン) マスッド(バンガラデシュ)
 5月8日 春のおおさか自転車散歩
 6月16日 ゴーヤ「みどりのカーテンづくり」ワークショップ
 場所:沖本会員宅(吹田市)
 3月29日 大阪ぞうすいの会
 「東日本大震災復興支援～あれから今」
 お話し:青木洋介
 場所:弘治文化会館(西成区)

<定例会>

毎月第3木曜日にアジア協会事務局にて定例会合を開催(合計10回)

(6) 第4エリア

【河内長野】(今井利子)

- 1)河内長野クリーン up 作戦
 実施日:偶数月/第4火曜日/午前7:00から
 場 所: 河内長野駅前前の歩道と植込みの清掃
- 2)河内長野市ボランティアフェスティバルへ出店参加
 開催日:2011年2月26日(日)10:00～16:00

場 所: 河内長野市立市民公益活動支援センター
 “ボランティアフェスティバル”では、アジア子ども絵画の展示、アジア各国の事情を PR、グッズの販売を行い、売り上げの協力が得られた。

3)東日本大震災への支援寄付

【松原】(橋本末子、森わか子)

JAFS 松原ブログ(田中愛子担当)は2009年3月に開設以来「松原ぞうすいの会」を軸に、JAFS 松原の活動報告を逐次掲載。

- 4月9日 松原ワールドフェスタ実行委員会
 4月17日 松原ボランティア連絡会(松原V連)総会
 5月22日 第56回 JAFS 松原ぞうすいの会
 ゲスト: オスカルピネダ氏(コロンビア)
 於: 松原総合福祉会館
 7月23日 第57回 JAFS 松原ぞうすいの会
 ゲスト: シャフ ウイナさん(インドネシア アチェ)
 於: 松原総合福祉会館
 8月29日 JAFS 松原地区スタッフ会議
 9月4日 松原ワールドフェスタ実行委員会
 9月17日 (松原V連)会議
 9月25日 松原ワールドフェスタ実行委員会パーティ
 10月15日 (松原V連)会議
 10月20日 松原第三中学校フェスタ会議
 11月5日 松原第三中学校フェスタ
 11月12日 2011 松原ワールドフェスタ
 ～13日
 2012年
 1月4日 JAFS 松原地区スタッフ会議
 1月9日 松原ワールドフェスタ会議
 1月12日 松原JC 新年互礼会 出席
 1月21日 (松原V連)会議
 1月22日 第58回 JAFS 松原ぞうすいの会
 ゲスト:津村佳彦氏(ツムラ)
 於:松原総合福祉会館 2階
 2月19日 希望会50周年記念(松原V連)
 3月3日 大阪ボランティア協議会河南地区大会出席
 3月23日 第59回 JAFS 松原ぞうすいの会
 ゲスト:Mr.Out Acheamponh(ガーナ)
 於:松原総合福祉会館 2階

【美原】(中嶋啓子、田中千鶴子)

- 6月12日 地区懇親会および新入会員への説明会
 11月6日 美原区民まつり準備
 11月7日 美原区民まつり(旧美原おもろいデー)参加
 JAFS 模擬店出店(収益を年末募金に)
 11月28日 美原区民まつり反省会および懇親会
 12月26日 地区懇親会および忘年会
 1月16日 地区懇親会および新年会

【富田林】(沖田文明)

普及啓発事業

富田林地区会「ラグラス」では平成23年度も各地のバザー出店を中心に活動しています。23年度はネパールに図書館を建てることが出来ました。これも地域の方がアルミ缶や、バザー商品を寄付して下さるから出来ることである。アルミ缶は月に一度近くのスクラップ屋さんへ運んで換金します。今アルミは1キログラム70円です。350ccの缶70缶で1キロですから、1缶1円の計算になります。軽トラックに1台運んで500円程度です。

アジア協会のバザーや、地域のバザー、堺の山の口商店街で手作り品販売、毎月28日の滝谷不動尊縁日にリサイクルバザーを開催しています。

- 4月29日 JAFS チャリティーバザール(JR 住道駅前)出店
- 5月5日 堺・さつき祭り(山之口商店街)出店
- 6月6日 津々山台公園「地域の輪祭り」参加と、バザー出店
- 10月11日 JAFS チャリティーバザール(JR 住道駅前)出店
- 10月17日 堺まつり(山之口商店街)出店
- 2011年4月～ 山之口商店街ギャラリー夢庵にて手作り品販売
- 2012年3月
- 2011年4月～ 毎月28日滝谷不動尊縁日にリサイクルバザーを
- 2012年3月 開催

(7) 第5エリア

【京都・宇治・野洲】(大倉達也、菅洋子、宮本照佳、柿木良昭、杉林則子、田中紀代三、亀谷真佐美、黒木準彦、福川肅、深田陽一)

- 6月19日 宇治地区例会
於:京都大学黄檗ロビー
- 7月30日 第5エリア懇談会
於:ゆめりあ宇治4F 会議室
- 10月8日 宇治地区例会(アジアお茶まつり準備会)
於:京都大学黄檗ロビー
- 11月30日 京都地区相談会(5名)
於:京阪三条
- 12月14日 第1回チャリティ公演準備会(7名)
於:京都平安ホテル 帆船
- 12月26日 第2回チャリティ公演準備会(6名)
於:ウイングス京都
- 1月8日 第3回チャリティ公演準備会(4名)
京都府名誉友好大使との面談
於:ウイングス京都
- 1月9日 第4回チャリティ公演準備会(3名)
京都府名誉友好大使との面談
於:ウイングス京都
- 1月16日 第5回チャリティ公演準備会(6名)
於:ウイングス京都
- 1月20日 京都文化博物館 下見打合せ(4名)
於:京都文化博物館別館ホール
- 2月6日 第6回チャリティ公演準備会(10名)
於:セカンドハウス
- 2月20日 第7回チャリティ公演準備会(11名)
於:セカンドハウス
- 3月4日 ~日本とアジアの人々をつなぐ~更なる連帯を
東日本大震災・タイ水害被災者支援
チャリティコンサート(250名)

- 於:京都府京都文化博物館
 - 3月24日 第17回アジアお茶まつり
於:ユニチカユニオン宇治川会館
 - 3月26日 京都地区活動相談会
於:メルパルク京都 円山
- その他、宇治市ボランティア活動センターに所属し、活動に参加協力している。

(8) 第6エリア

【西宮】(岡田昂、大木洋子、木崎義純、斉藤英美子、畠中美代子、平山隆史)

- 4月9日 スタッフ会 5月ぞうすいの会準備
於:西宮市立中央公民館
- 4月29日 活動パネル展示とバザー出店
於:西宮市中央教会 ふれあいマーケット
- 5月15日 ぞうすいの会パキスタン編(26名)
ゲストスピーカー グルザールアリさん夫妻
於:西宮市中央公民館
- 8月26日 スタッフ会 年度後半計画
於:西宮市立中央公民館
- 9月11日 スタッフ会 10月の料理教室準備打ち合わせ
西宮市中央公民館
- 10月1日 ぞうすいの会料理教室 コロンビア編
講師 オスカルピネダ さん
於:西宮市中央公民館
- 1月9日 スタッフ会 アジアンパーティー準備と新年会
ファミレス『さと』
- 1月21日 Asian Party in 西宮 2012 (33名)
西宮市中央公民館
- 2月11日 スタッフ会 交流デー準備他
宮下宅
- 2月12日 西宮国際交流デーに参加
活動パネル展示、アジア民芸品販売
於:西宮市国際交流協会
- 3月1日 西宮市国際交流協会より
『国際交流事業助成金』5万円 の交付が決定
- 3月24日 料理教室 各国編 開催
講師 米田スタッフ(調理師)
西宮市中央公民館

【神戸・芦屋】(井上登志子、白神博子)

- 10月29日 「神戸グローバル・チャリティフェスティバル」
物販で参加
於:聖ミカエル国際学校(中央区)
- 10月30日 芦屋フリーマーケット」出店
於:JR 芦屋駅前
- 2021年 地区新年会
- 1月9日 於:「パリラゲーン」インドネシア料理(芦屋市)

【姫路】(森 梢、荒川鉄也、中尾和子、松本茂宏)

普及啓発事業

定例会: 毎月第1木曜日 19:00~

場所: イーグレ姫路 ボランティア活動室

- 6月25日 アジア料理~インドネシア料理~
- 10月23日 姫路オータムフェスティバル参加
於: 大手前公園
- 11月12日 ウォーカソン
「宿場町探訪 — 平福」
- 2月26日 姫路スプリングフェスティバル参加
於: イーグレ姫路

(9) 第7エリア

【奈良・生駒・大和郡山】(青木美千代、一瀬由起子、落合能里子、金剛一智、高以良泰治、奈蔵千代、野口明英、福島朋子、古田由紀、矢野恵美子、山田いづみ、山田穂積、和田達生、渡邊瑠璃子)

- 4月15日 東日本大震災のための奈良街頭募金
於: 近鉄生駒駅前
- 5月28日 奈良地区5月例会
於: 奈良市中部公民館
- 6月17日 奈良地区6月例会
於: 奈良市中部公民館
- 8月6日 『真夏の夜のウォーカソン in なら』
< Part1 >
講演「今、日本のこの状況において私達は
何を考え、どう行動すべきか」
村上公彦事務局長
< Part2 >
ウォーカソン「燈花会」会場を歩く
奈良中部公民館→興福寺→浅茅ヶ原→浮雲
園地→東大寺鏡池→近鉄奈良駅
於: 奈良駅周辺
- 9月16日 奈良地区9月例会
於: 奈良市中部公民館
- 10月29日 『柿狩りウォーカソン in 奈良』
JR 木津駅→鹿背山→柿園→木津駅
於: 木津川市鹿背山
- 11月26日 吉野に行こう! ウォーカソン
~ 清流と記紀・万葉、吉野杉
の匠をたずねて~
(午前第一部) 清流と記紀万葉コース
宮滝→吉野歴史資料館→宮滝醤油蔵→宮滝・象の
川を遡る→桜木神社→宮滝の奇岩・景勝
(午後第二部) 吉野上市の町並み散策・吉野杉の匠
コース
やたがらす酒蔵 見学→上市の歴史的町並み「吉
野葛」→製材所の町並み→吉野杉樽づくり見学→
吉野神宮駅
- 1月14日 奈良地区1月例会
於: 奈良中部公民館
- 2月11日 「竹送りウォーカソン&奈良地区2月例会」
於: 京田辺市及び奈良市
- 3月9日 アジア屋台フェスティバル会場下見
奈良地区3月例会
於: 高の原

【東大阪】(岡田一、坂上やよひ、南野紀美子)

- 5月8日 東大阪ふれあい祭り出店
於: 近鉄大阪線河内小阪付近
- 11月3日 東大阪国際交流フェスティバル
於: 三ノ瀬公園
- 11月22日 東大阪ぞうすいの会
東日本大震災被災者支援活動報告会
於: イコーラム

(10) 第8エリア

【和泉市・堺市・高石市・泉大津市】(出原とよ、内野清子、中居順三、幾谷真嬉子、久保幸子、小出裕司、佐藤満昭、草加節男)

- 6月5日 和泉ワールドフェスティバル 参加
- 7月18日 東日本大震災被災者支援
チャリティギター演奏会
出演: 田口吉三氏他 於: 堺市東文化会館
- 8月19日 こども絵画展
~24日 於: ギャラリーいろはに
- 10月12日 第8エリア懇談会 参加8名
新入会員を迎え、
東日本大震災の支援活動の報告
於: 堺市立国際交流プラザ
- 10月16日 堺まつり 出店
於: 山之口商店街(堺市)
- 11月19日 和泉ボランティアフェスティバル 参加
- 11月27日 堺第7-3区植樹祭 参加3名
- 1月2日 家原寺 街頭募金活動
- 3日 東日本大震災被災地支援
- 1月25日 第8エリア会&新年会 参加8名
東日本大震災とタイ水害 活動報告
会場: 堺市国際プラザ
- 2月24日 タイ・日本双方の災害支援のため、瀬田敦子さんを
中心に開催されるチャリティコンサート
「Nodame Concert」
第8エリアより3名参加 於: タイ チェンマイ

(11) 第9、10エリア

【東京】(岩田芳晴、高岸泰子、長谷川雅子、雨宮義人、端無勝、菊池美智子、田中政直、牧三晴、小島学、品川壮、川崎隆二)

- 3月31~
4月9日 東日本大震災支援第2次隊(3/31~4/9)、第5次
隊(5/26)に地区会メンバーが参加[菊池]
- 5月26日
- 5月14日 「被災地応援! よこはまチャリティウォーク」を
開催。
於: イタリア山庭園、山手カトリック教会、港
の見える丘公園、山下公園、赤レンガ倉庫、横浜
開港資料館、赤レンガ倉庫、日本丸メモリアルパ
ークなど(歩行距離: 約7km)

普及啓発事業

	参加者：62名 (+心のウォーク:4名)、一般参加多数
5月14日	「被災地応援！よこはまチャリティウォーク」を開催。 於：イタリア山庭園、山手カトリック教会、港の見える丘公園、山下公園、赤レンガ倉庫、横浜開港資料館、赤レンガ倉庫、日本丸メモリアルパークなど（歩行距離：約7km） 参加者：62名 (+心のウォーク:4名)、一般参加多数
8月25日 ～8月28日	小谷村ワークキャンプ 於：信州 小谷村 共働学舎 学舎の皆さんとの協働作業・心の交流（家畜の世話、工芸品製作、萱運搬作業、薪割り、野菜の収穫、などを通じて） 梅池高原ウッドチップロード ウォーカソン 参加者7名
9月10日 ～9月13日	台風12号被害復旧支援活動に地区会メンバが参加 [端無]
9月17日 ～9月18日	東日本大震災支援活動への協力 於：JAFS 登米事務所、吉野沢仮設住宅 JAFS 高槻地区の皆さんと、巨大絵画「うたつのタカラ」製作への協力 [岩田、川崎]
10月1日 ～10月2日	グローバルフェスタ JAPAN 2011 飲食ブース、展示ブースを出展 テーマ：「絆～私たちはつながっている 世界は日本とともに、日本は世界とともに。」 於：日比谷公園 ブース運営参加者：のべ32名 （本部スタッフ、ボランティアの皆さん多数のご協力）
10月5日	JAFS 関東ブログ、訪問者数10,000人を突破（開設：2009.7月、のべ公開記事数：135件 [10/5 現在]）
12月2日	関東地区報告会&懇親会 於：JICA 地球広場 セミナールーム 村上局長：震災支援活動を中心とした活動報告 牧野由紀子さん：インド・デリー子ども村建設の状況
12月3日	講演会「森は海の恋人～人の心に木を植える～」に地区会メンバ参加 [岩田、高岸、菊池、川崎] 於：日本基督教団信濃町教会 主催：日本クリスチャン・アカデミー関東活動センター
2012年 2月	SNS を活用した理解の輪の拡大、広報の補完 ・ JAFS Facebook ページ ファン数：130人 ・ JAFS 関東 Twitter アカウント フォロワー数：140人に到達
2012年 2月10日	関東地区例会 2012年度活動プランの検討

	於：JICA 地球ひろば セミナールーム 参加者：岩田、川崎、高岸、端無、牧野、田中 ゲスト：トエエモン ラカインさん
3月17日	「葛西臨海公園・きずなチャリティウォーク」 於：江戸川区自然動物園 / 行船公園、新長島川親水公園、葛西臨海公園（芝生広場、汐風の広場、展望広場）、葛西海浜公園（西なぎさ）（歩行距離：約7km）

【多摩】(広住道夫)

	中央大学福祉ゼミナール
6月15日	「よいボランティアになるために」(38名) ・ JAFS 活動紹介 於：中央大学(多摩市)
10月10日	(社)アジア協会アジア友の会「情報誌」設置の件、検討会打ち合わせ 於：市共同作業所「れすと」(7名) スペースの関係今後の検討
12月20日	サタデイスクール創作ぬりえ ・ JAFS 活動紹介 於：八王子市松ヶ谷小学校 (28名)
2012年 2月12日	「世界子ども創造ぬり絵大会」入選作品展示 JAFS 活動紹介 (来場者600名) 於：由木東市民センター祭りにて

3. 広報

(1) アジアネット

平成23年3月11日、東日本を襲った地震と津波、JAFSはいち早く支援体制を組み被災者支援を実施しました。災害直後は、炊き出しや生活物資の配布など緊急支援を行い、現在は、被災者の生活が成り立つように、味噌の生産工場や海産物・農産物の販売所の建設など自立支援を行っています。

街頭募金やチャリティコンサート、ミサンガの制作販売など多くの市民や会員の皆様のご協力を得て災害復興に努めてきました。

アジアネットの編集担当者も現地に張り付き、支援活動を続けているため、発行が遅延いたしておりますことを深くお詫び申し上げます。新年度は、公益法人としてより一層の広報の役割が重要になり、定期発行に努め、国内外の活動を詳細にわたって報告します。

アジアネット発行実績：各号5,500部

108号 2011年8月

109号 2011年12月

108号主要記事

特集「東日本大震災 心に寄り添う活動を」

- ・ 巻頭言「公益法人制度改革がJAFSを変える」
- ・ 東日本大震災 心に寄り添う活動を
- ・ 2010年度の海外プロジェクト
- ・ 命の水、贈りつづけて32年 暮らしを変えた井戸は今
- ・ 被災地の現場に立って
- ・ 捨てられた自転車を活かす
- ・ 寄贈井戸報告

普及啓発事業

- ・ 2011 年度社員総会報告

109 号主要記事

特集「南三陸のタカラをふたたび」

- ・ 巻頭言「監査役四方山話と社会貢献」
- ・ 未来への力 第2回アジア・ユースサミット
- ・ 海外プロジェクト2011年 一覧表
- ・ 「学びたい」を実現できる場所 インド職業訓練学校完成
- ・ 東日本大震災復興支援プロジェクト「南三陸町のタカラをふたたび」
- ・ アジアのネットワーク通信
- ・ 里子の笑顔
- ・ 寄贈井戸報告
- ・ 里子の笑顔
- ・ 新入会員ご紹介
- ・ ある水汲み少年の物語(7)

(2) 会員プラザ

本誌は、国内活動をきめ細かくお知らせしている。時には、会員の趣味や日頃のボランティア活動を紹介しお互いの考えや息遣いまでを身近に感じて頂き、同じ思いを抱く同志としての絆を深めて頂くと思う。

新年度からは、公益社団法人としての活動がより広く社会の注目を浴びることになり、今後とも、本誌は会員の活動を主体に出来るだけ多くのニュースを届けていく。

発行実績:2,500 部

- ・ 28 号:2011 年 12 月
- ・ 29 号:2012 年 2 月

(3) 社員通信

「社員通信」は、社団法人の社員について学んでいくと共に、JAFS 社員会員の様々な活動を紹介し、相互のコミュニケーションを図ることを目的に発行している。

(4) ホームページ

本年度は新たに JAFS ブログを立ち上げ、東日本大震災の報告などをオンタイムで届けることができた。今後も定期的に東日本大震災、事務局、海外からのニュースを定期的に更新していきます。

(5) メールマガジン

本年度は、合計 22 回の発行ができた。現在、登録読者数は 599 名。

メールマガジンの内容は、本会の海外支援プロジェクトの状況やアジア現地からの小話、また国内プログラム参加者の感想など一般の方に親しみやすい内容を届けることができた。また今年度は、8 月 7 日から 1 週間、本会主催プログラムの「土と水と緑の学校」の現場か

らライブで、その日の様子を取材したレポートを毎日配信する新たな試みがなされました。

2012 年度は、さらに本会ホームページへ誘導し活動への参加協力につながるような工夫も加えて、それを効果的に活用させていきたい。

(7) ブログ等

活動状況を広く発信するために、各活動グループでブログやホームページを独自で設け、本会ホームページとリンクをしている。

・ JAFS 東大阪ぞうすいの会

<http://www.zousui.org/>

・ 松原ぞうすいの会 (HP を開設 2009/3/25)

<http://blog.goo.ne.jp/jafsmatsubarazousuinokai>

・ JAFS 関東地区 (ブログを開設 2009 年 7 月)

<http://jafskanto.blog61.fc2.com/>

・ グリーンスカウト大阪

<http://green.ap.teacup.com/gskouhou/> (広報用)

<http://green.ap.teacup.com/applet/greenscoutosaka/archive>
(参加者・保護者用)

<http://moon.ap.teacup.com/applet/gs2009/archive> (ボランティア用)

・ グリーンスカウト吹田 (HP を開設)

http://www.geocities.jp/greenscout_suita1/htmls/top.htm

・ JAFS 北河内緑とふれあう会

<http://blog.goo.ne.jp/midori-hureai/e/f44a89b4c3725b8971be5efb7902b179>

4. プロジェクト支援 (支援会・ファミリーグループ)

(1) ぞうすいの会

(山崎桃、平井三千子、澤村和子)

「ぞうすいの会」の「ぞうすい」は、「雑炊」「増水」「贈水」の意味がある。質素な雑炊をとることで自分たちの過食や健康をみなおすとともに、「ぞうすいの会」への参加費を積み立てて、アジアの人々に衛生的な水を贈っている。

毎月1回(年間12回)開催で、アジア協会アジア友の会事務局から各国でのプロジェクトについての現状を聞きながら、季節の香り高い雑炊を頂いている。

本年 3 月で、295 回目の「ぞうすいの会」を迎えた。継続することの大切さをあらためて実感でき、今後も、会員のみなさまの深いご理解と温かいご支援を得ながら、活動を続けていきたい。

284 回 4 月 5 日 「カンボジア 井戸建設の現場から」
青木 洋介 8 名参加

285 回 5 月 10 日 「東日本大震災第 3 次支援活動の様子」
青木 洋介 12 名参加

286 回 6 月 7 日 「カンボジアの小額貸付事業について」

普及啓発事業

- 横山 浩平 12名参加
287回 7月5日 「インド・コスモニケタン学園のいま」
富松 英二 14名参加
288回 8月9日 「南三陸町にエプロンを届けよう」
橋本 末子 15名参加
289回 9月6日 「第2回アジア・ユースサミットの報告」
田中 壽美子 12名参加
290回 10月4日 「サイクル・エイド事業のいま」
橋本 隆 18名参加
291回 11月8日 「バングラデシュ
～ウォータースマイルプロジェクト中間報告」
横山 浩平 15名参加
292回 12月6日 「南三陸町から復興のいま」
松井 聡子 12名参加
293回 1月10日 「インドから最新ニュース」
村上 公彦 17名参加
294回 2月7日 「ラオスをたずねて～枚方から井戸を贈って」
吉田 幸子 15名参加
295回 3月6日 「アジア協会のCM試作を公開」
青木 洋介 15名参加

(2) お母さんの地球学校

(代表 小原純子)

1984年、JAFS主催の「地球資源を考える読書会」に参加した母親が中心に、終了後も地球規模で考え勉強しようと、「国際婦人年10年」の最後の年の1985年5月12日の母の日に発足。危機状況にある自然の現状を知り、「土」「水」「緑」「人」を軸に、地球総合環境問題について、専門の研究者の講演を聞き、時にアジア各国の「お母さん」をお招きして、自然生態系の中でのバランスの取れた人間社会のありかたを学習。自然と人間が調和していく心を地球市民レベルで見つめて、次世代に伝えたいと希望。1996年1月28日には、同名タイトルの本「お母さんの地球学校」を発行。「お母さんの地球学校」主催の「緑のリサイクル運動」(牛乳パックの回収)は1985年の発足時より現在も続行中。

毎月第1か第3の木曜日午前10時半から12時半、JAFSにて開催。年令・性別問わず受講可。

講師の都合により一時休講中。

(3) アジア井戸ばたサロン

(代表 山崎桃)

1990年「WINA2000」アジア国際女性会議参加を機に開催された。これを機にアジアの女性の地位向上に寄与するという目的で「アジア井戸ばたサロン」の活動をはじめた。今年度でそう援助額は250万円をこえた。

小さな力でも積み重ねると大きな成果を生み出すということを含い言葉に、活動をつづけている。サロンに集まるメンバーも充実し、本年度も一歩一歩着実に歩み、手作り工芸品の製作など、おおいに成果をあげている。

目的達成のために1992年4月に設立された「水がめ基金」から、本年度も、「JAFS里親の会」に昨年と同様に10万円を支援した。

< 活動 >

- ペーパークラフトを主に手作り工芸品の製作
(箸袋、季節のカード、香袋など)
毎週火曜日午後1時～3時
- 各種文化交流会
 - 1) 2011年5月25日
春の見学会:石像仏伝・日本建築探訪・日本人の自然
・「仏陀の生涯」(石峰寺)
・「日本建築の細部意匠」(伏見稲荷)
・「墓股からみた日本人の自然観」(伏見稲荷)。
 - 2) 2011年7月12日 平安神宮庭園見学
 - 3) 2010年10月18日 和紙販売店見学及び購入
 - 4) 2011年12月6日
「アンリ・サラ」「中之島コレクションズ」「世界制作の方法」
(国立国際美術館)
- イベント参加
 - ・ 2011年11月12日 「2011松原ワールドフェスタ」
(手作り作品販売、チャイトロン販売)

(4) JAFS ハルハロ・Fランチ

(橋本末子、天野澄子、原のりこ)

発展途上国における子どもの教育の大切さに着目して発足して、現在は3ヶ所の支援をしている。活動資金を得るための主活動として毎週金曜日に「Fランチ」を行っている。

支援先

ラット福祉センター (ネパール、パタン市)

両親がいない、片親である、あるいは家庭が非常に貧しいなどの理由で就学できない家庭の親子を面接して、困難な状況にある家庭の子どもを優先的に学校へ受け入れ、教科学習の他、健康チェックも行っているセンター。1988年に設立され、現在の生徒数は幼稚園児～8年生まで合計243人。ハルハロは1993年以来、教師2人の給料支援を継続的に行っている。本年は、主活動である「Fランチ」でハリシュレスタ氏より現地報告を受ける。

日印友好学園コスモニケタン プライマリースクール

(インド カルナータカ州)

1998年より学校支援開始。2002年より毎年JAFSアジア里親の会の里子6人の支援を継続。本年は7月22日の「Fランチ」でJAFS理事富松英二氏より学校報告を受けた。ハルハロ里子の内3人が転校などで学校を退いていた。

フィリピン・マニラ ストリートチルドレン支援

JAFS ストリートチルドレン自立支援プロジェクト。2004年12月より支援開始。マニラ国鉄線路沿いスラム街に住んでいる子ども達(約100人)のための教育支援プログラム。2008年4月からJAFSアジア里親の会の里子6人の支援開始。現在2年生2人、3年生2人、4年生2人

普及啓発事業

活動

主活動「Fランチ」。
毎週金曜日ランチタイムに、国内外からのゲストの話(生活文化、環境問題、その他)を聞き、国際協力に不可欠な異文化理解を学びながら、スタッフ手作りの昼食を楽しむ。(但し、9月から1カ月2回に変更)
4月29日(日)南大阪教会ランチサービス
7月11日(月)～14日(木) エブロンプロジェクト南三陸へ
7月29日エブロン隊報告会・打上げ
10月29日(日)神戸グローバルチャリティフェスティバル(KGCF)に参加
12月10日(土)大東市北条人権文化センター主催 Xmas パーティ企画実施

2011年度ハルハロ・Fランチ ゲスト

- ・日本語で記載(日本語でのお話)
- ・英語で記載(英語でのお話)

回数	日にち	ゲスト氏名(国・所属)
807回	4月1日	Mr.Masudur Rahman (Bangladesh)
808回	4月8日	Dr.Jiranan Warachit De Silva (Thailand)
809回	4月15日	崔 誠祐(チェ ソンウ)さん
810回	4月22日	松井聡子さん(JAFS)
811回	5月6日	シンゲレラさん(内モンゴル)
812回	5月13日	Mrs. Ann Fukumoto (Ireland)
813回	5月20日	小吹岳志氏(フェアトレードサマサマ・オイコ クレジットジャパン)
814回	5月27日	田中壽美子さん(JAFS)
815回	6月3日	ウイナさん(インドネシア アチェ)
816回	6月10日	Mr.Norm Boniface (Australia)
817回	6月17日	川端勝氏(実践真宗学研究・JAFS 評議員)
818回	6月24日	Mr.Vincente Santiago (Spain/Mexico/Poland)
819回	7月1日	ダリア アナビアンさん(イラン/イスラエル)
820回	7月8日	横山浩平氏(JAFS)
821回	7月15日	ハリ シュレスタ氏(ネパール)
822回	7月22日	富松英二氏(JAFS 理事)
823回	7月29日	松井聡子さん(JAFS) ハルハロエブロン隊南三陸報告(橋本末子、天野澄子)
824回	9月9日	ヴァイセイトヴァ デイアナ(ウズベキスタン)
825回	9月30日	Mr. Edd & Mr. Benn
826回	10月14日	橋本隆氏(JAFS 理事)
827回	10月28日	ジャミラ ウライム(中国・ウイグル)
828回	11月11日	松居友氏(ミンダナオ子ども図書館)
829回	11月25日	デニス フィッシャー氏(ドイツ・松原高校留学生)
830回	12月2日	カフレ ラム チャンドラ氏(ネパール)
831回	12月16日	チャリティ Xmas パーティ(ハイメさん、松井聡子さん、山口公子さん、東啓子さん)
	2012年	
832回	1月13日	田中久雄氏(株かんぼう JAFS 理事長)

833回	1月27日	Mr.Randall Bolling (USA)
834回	2月10日	中嶋賢二氏(中嶋技術士事務所代表)
835回	2月24日	Ms. Chandini Wanduragala (UK/大学講師)
836回	3月9日	ハイメ ロペス氏(チリ)
837回	3月23日	村上由里子さん(JAFS 海外ボランティア研修生) 松井聡子さん(JAFS)

(5) アジア国際夏期学校(AISS)

(代表 河村蒼)

小学生から大人までを対象にした海外ワークキャンプ、アジア国際夏期学校(Asia International Summer School : AISS)の参加者が帰国後も、国内で自主活動が続いている。ワークキャンプの企画や準備をその年のワーク参加者とともにやり、毎年インドの日印友好学園コスモニケタンスクールへ送り出している、JAFS 唯一の小学生から参加できる海外ワークキャンプであり、現在国内活動の参加メンバーも中学生から社会人まで幅広い。

過去数年バザー等で得た収益金を本年度コスモニケタンの発電設備の修繕に協力することが出来た。

今年は2回のJAFS バザー、東大阪フェスティバルに参加

(6) フィリピン水源の森支援会

A. マロンパティクラブ

(代表 垣鍔祐介)

フィリピン・パナイ島・パンダンへのワークキャンプ・交流ツアーの参加メンバーで構成。

現地との友好関係の継続やメンバー間の交流を図るため、定期ミーティングを行った。

リサイクルのジュースバックを現地より買い付け、国内販売をすることで、パンダン町の障がいを持つ人たちの支援を行う。

<活動>

- ・ミーティング(1回/月) ・展示物・活動紹介チラシ作成
- ・現地植林活動支援 ・パンダン交流キャンプ計画支援
- ・植林活動への寄付

5月7日 クラブ定例会

5月20日 AFS-Pandan 代表者来日に伴い、クラブ定例会

B. パロンパネス会

(代表 曾和 明)

フィリピンのパロンパネス島のワークキャンプへ参加したメンバーを中心に、帰国後も現地の支援を行うことを目的に2008年に組織。現地との交流、環境に関する知識の向上を行っている。

現地の苗床や苗木の支援を行うことができた。

3月16日 ワークキャンプオリエンテーション於:JAFS

3月24日 ワークキャンプオリエンテーション於:JAFS

3月27日 第6回パロンパネス国際ワークキャンプ

～4月2日

(7) スリランカ・サルボダヤ友の会

(代表 鈴木誠也)

スリランカ現地提携団体である NGO「サルボダヤ」との絆を深め、

普及啓発事業

サルボダヤ運動の根幹となる部門 CCBU (Community Capacity Building Unit) が行う農村開発運動への支援の輪を広めていくことを目標として活動している。

スリランカに関するプログラム(講座や文化交流等)を企画開催し、スリランカの歴史・文化・環境・生物の多様性等を楽しみながら学んでいく内容とした。一人でも多くの方にスリランカを身近な国と感じ、日本とは異なる文化を持つこの国への理解を深めることで、CCBUの活動への理解・支援の輪の発展を目指す。

- 4月4日 準備会 於:JAFS 会議室
- 4月29日 春のJAFS 住道バザー 出店 於:大東市
- 5月8日 東大阪ふれあいまつり 模擬店参加
於:河内小阪駅近く
- 6月13日 例会 於:JAFS 会議室
- 6月15日 準備会 於:JAFS 会議室
- 7月20日 例会 於:JAFS 会議室
- 9月5日 第12回スリランカ講座
『内戦が終わった今…スリランカの復興策とは』
講師:サマン ペレーラ氏 於:JAFS 会議室
- 10月10日 秋のJAFS 住道バザー 出店
於:大東市
- 12月12日 例会 於:JAFS 会議室
- 1月12日 準備会 於:JAFS 会議室
- 1月30日 チャリティコンサート 出演者打合せ
- 2月2日 例会 於:JAFS 会議室
- 2月13日 準備会 於:JAFS 会議室
- 2月24日 準備会:会場下見 於:JAFS 会議室
- 3月3日 第13回スリランカ講座『スリランカ料理教室』
講師:ラックスマン フェルナンド氏
於:クレオ大阪西
- 3月9日 準備会 於:JAFS 会議室
- 3月20日 『内戦をのりこえたスリランカの子どもたちのための
チャリティコンサート Together with 時田直也
共に生きる幸せを!』
於:サンシビック尼崎
- 3月30日 例会 於:JAFS 会議室

(8) コスモニケタン育成会

(代表 村上武)

本育成会は発足から4年目に入った。今年度はコスモニケタンの運営の維持費を送った。11月にてRUDYA 支援会と統合し、日印友好学園育成会として活動を起こすこととなった。

(9) 日印友好学園育成会

(会長 柏木道子)

1. 11月より日印友好学園育成会として、コスモニケタン学園、バダトラ小学校を含む理事会が発足した。
2. 各理事の担当業務の確認とワークショップ・グループ(支援グループ)の確立。
育成会4月正式発足
3. 育成会世話人人事
日印友好学園育成会の組織上の世話人として、代表及び各学校運営のための総括幹事を以下の如く選任した(任期2年)
 - 1) 育成会会長 柏木道子。

- 2) 同副会長 未定(バダトラ校担当理事の中より選任する)。
- 3) コスモニケタン校運営総括幹事 富松英二。
- 4) バダトラ校運営総括幹事 村上公彦

(10) JAFSネパールのかけ橋

(代表 岡田光浩、書記 一瀬由起子)

ネパールをこよなく愛する者を参加資格とし、JAFSのネパールでの活動の支援を目的とする。

活動のテーマは、「ネパールの子どもたちの支援」。2003年度より、冬季ワークキャンプ(バイオガス建設ワークキャンプ)の自主計画を継続し、バザーによる資金調達・現地でのボランティアワークなどを行ってきた。

原則として、毎月1回(第2土曜日17時~)例会を行ってきた。今年度の活動内容は以下の通り。

ネパールに対する継続支援として2010年度より里親の会を通して、チュニケル村の両親共に死亡して孤児となったプラカーシュ君を支援。今年度の支援としては人材育成としてネパールのスダール村村村落開発ボランティア委員会の代表 クリシュナ ネパール氏(30歳)のフィリピン アジア社会科学院のCD3か月コース留学のための資金一部補助。第2回アジアユースサミットのネパールよりの招聘者に対する参加費一部補助及び当日のボランティア参加、また4名の来日の歓迎と交流を行なった。

ワークキャンプにて栄養指導のプログラムを導入するための教材を手作りで作成した。今年度4セット作成し、ピトゥリ村のピトゥリ小学校、ラーズラトナ小学校と他2校へ寄贈した。

小学校建設支援協力も今年度目標にしていたが資金調達不足のために実施できなかった。

- 4月9日 例会
- 4月29日 JAFSバザー参加
- 4月30日 打ち上げ(宇治)
- 5月14日 例会
- 6月11日 例会
- 7月9日 例会・栄養プログラム教材作成
- 7月16日 栄養プログラム教材作成
- 8月19日 枚方まつり出店準備
- 8月20日 枚方まつり出店参加
- 8月21~25日 ユースサミット参加
- 8月27日 ユースサミット参加者(ネパール)と懇親会
- 10月15日 例会
- 11月2日 東大阪多国際フェスタ出店準備
- 11月3日 東大阪多国際フェスタ出店
- 11月12日 松原ワールドフェスタ参加出店
- 11月12日 例会
- 12月10日 例会・忘年会
- 1月14日 例会・新年会
- 2月18日 JAFS 会員大会参加
- 3月3日 例会

(11) PAON

(代表 谷阪洋子)

アジア家庭料理教室の参加者の中から有志のメンバーが集まり、料理を活かしたボランティア活動を行っている。アジア各地の料理を通じて、各地域の文化を体験・理解すること、その活動の中で、必

・普及啓発事業

要とされる支援を行っていく事を目的としている。

来年度は飲食店出店や料理を通じた文化交流プログラム等を企画し、PAONとしてJAFSの海外プロジェクト支援、特に安全な飲料水の支援を目標に活動している。

- 4月29日 春のJAFSチャリティバザール出店
於:住道駅前デッキ
- 10月10日 秋のJAFSチャリティバザール出店
於:住道駅前デッキ
- 2月4日 ワン・ワールド・フェスティバル
~5日 民族料理模擬店出店参加
於:大阪市国際交流センター

各イベント前にはミーティングを行い、協力体制を構築している。

(12) JAFSビジネス交流会

(代表 茶谷良明)

ビジネス、商流を通じて何がしかの利益を得て、活動に貢献するのが会の趣旨ですが、昨今の経済状況を含め、商売ができない会員や絶対会員数が減少して苦慮しているのが現状です。

<定例会開催>

日時: 奇数月の第3水曜日 18:30~

場所: いきいきエイジングセンター(大阪市北区)

(13) JAFSダンス同好会

(富田修 橋本隆 天野澄子)

楽しみながらボランティア資金(井戸基金)を集める趣旨で開催している。本格的な社交ダンスから懐かしいポップス、オールディーズを交えた気軽なパーティー。参加者も世話人も一体となって音楽とダンスとおしゃべりを楽しむ。JAFS会員以外の参加者も多く、会員獲得の機会もあり、JAFS活動のPRの場にもなっている。

2008年度には本同好会からの第1基目の井戸として、スリランカに井戸を寄贈した。

(14) JAFSダーナークラブ

(代表 寺岡 源司)

このクラブは官民各分野の第一線を退いた方々がより多い「第2の人生」を送れるように、また、現役時代に培った知識・経験を生かして、楽しみながら活動できるようにとの願いで、2005年に発足。

英語の donor(篤志家)、donation(寄付)や日本語の「檀那」などの語源である古代インドのサンスクリット語「ダーナ」*dhāna*(贈物)をもとに、村上局長の命名によるものです。

<主体活動>

例会の開催 (毎月第2金曜日)

4/8、5/13、6/10、7/8、9/9、10/14、11/14、12/9、1/13、2/10、3/9

・ネパールの里子支援

・山椒収穫(京都府美山)のボランティア(6月)

<共催・支援活動>

- 4月29日 JAFSチャリティバザール 支援
- 8月8日 土と水と緑の学校参加協力
~8月13日
- 8月20日 第2回アジアユースサミット支援

~28日

- 10月8日 肥後橋・土佐堀かいわいクリーン UP 作戦
- 10月30日 淡路島うずしおフェスティバル絵画出展・紹介
- 12月10日 肥後橋・土佐堀かいわいクリーン UP 作戦
- 2月4日 ワンワールドフェスティバル支援
~2月5日
- 2月18日 JAFS 会員大会 支援

(16) JAFSオアシス会(中国教育医療支援会)

(代表 青木美千代)

オアシス会はアジアの中に「理解と協働と連帯」の輪を広げるというJAFS 基本理念をすすめていくために、シルクロードを中心に相互の国の文化や歴史を学び、お互いに尊重し、理解し合う場を創り出すことを目的とする。

シルクロードを通じて日本にもたらされたものを「文化交流」により見出し、日本文化の原点を身近に感じることで、私達の日常に根付いている文化を再認識し、それぞれが培ってきた伝統文化や精神を次の世代にパトタッチできるよう、アジアの一員として未来に向けた活動を行う。

- 2011年 『シルクロード地域の留学生による
4月16日 東日本大震災被災地支援チャリティ公演』
於:大阪市中央区民センター ホール
- 4月23日 チャリティ公演振り返り会
- 7月4日 AFSメンバー来日歓迎会
- 7月22日 シルクロード舞踊と音楽プログラム協力
於:京都カッパドキア
- 7月26日 AFSメンバー交流会・スタディツアー相談会
- 8月23日 アジア家庭料理教室~ウイグル編~協力
- 9月7日 第4回中国新疆ウイグル自治区スタディツアー
~14日 参加(医療支援協力)
於:ウルムチ、トルファン、ピチャン、敦煌他
- 10月28日 ハルハロ ウイグルスタディツアー報告
スタディツアービデオ上映会
於:JAFS事務局
- 11月10日 『新疆音楽・舞踏との出会い』協力
於:クレオ大阪北

(17) アジアネットワーク奨学会

(代表 古賀 旭)

アジアネットワーク奨学会は各自の専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく貢献するとみなされる若手の人材育成資金(奨学金等)を支給するための支援会である。2011年度はフィリピンにあるアジア社会科学学院(ASI)の実施するCDコースに派遣された4名のうち、3名に研修奨学金を提供した。

(18) ネパール子ども夢基金

ネパールの子どもたちが「夢」そして「希望」のあふれた未来作りができるよう、様々な体験を通じた成長を目指す子どもたちの教育支援基金。会員として支援者を募ると共に、ネパールワークキャンプ(2011年8月及び12月末実施)における子ども環境セミナーを実施の支援

・普及啓発事業

を行った。

(19) ネパールスクテ診療所支援会

(代表 小原純子)

スクテ診療所は無医村のため医療行為を身近に受けることができなかったシンドゥパルチョーク郡スクテ村とその周辺の住民のために本会支援のもと、建てられたスクテ診療所。地域住民により自立運営できることをめざした活動を3年実施。現在は運営が地元運営により実施できている為に、地域医療状況が不十分なエリアでのモバイルクリニック実施に向けて資金調達のためにアルミ缶のプルトップ収集を積極的に行った。

(20) ネパール赤ちゃん(母子健康)支援会

(代表 大谷タカ子)

ネパールでは、妊娠中、そして出産の時に病院でケアを受けることが殆どない。背景には、国土の80%以上が山地であるネパールでは、数時間、数日かけて病院にたどり着く場合が多く、通院することが不可能だからである。そのため、安全なお産が少なく、多くのリスクを抱えてのお産を婦人達は強いられている。本支援会は、山間地であっても生命の誕生であるお産が少しでも安全な中で迎えられるよう、母子保健の向上のために支援をする会である。地域医療状況が不十分なエリアでのモバイルクリニック実施に向けて資金調達のためにアルミ缶のプルトップ収集を積極的に行った。

(22) 国際グリーンスカウト支援会

国際グリーンスカウト活動の発展に寄与することを目的に設立。国内外のグリーンスカウト活動への支援やグリーンスカウトメンバーの育成を行う。

年4回実施されている「エコキャンプ」や毎年8月に和歌山県新宮市で開催されている「土と水と緑の学校」への支援を行い、参加者やボランティアリーダーが参加しやすい環境をつくる。具体的には、キャンプ備品の整備や、ボランティアリーダーなどの経済的負担を軽減、キャンプ中の生活環境改善するための支援を行う。また、グリーンスカウト活動のリーダーを育成するために、1年を通じて研修を行う。

フィリピンパロンバナネス島のグリーンスカウトが実施している植林活動を支援するための「植林基金」を創設し、支援をしている。(GS大阪共同事業)

(23) 会員親睦・交流支援会

(代表 岡田 昂)

JAFS 会員の交流及び、新入会員の歓迎、会員研修・相互理解のために必要な各種企画の立案・実施を行うため、2008年5月に立ち上げた。今年度は、JAFS ウェルカムパーティーを4回開催し、延べ16名の新入会員の参加があった。今後は、さらに会員の親睦を深め、新たな輪を広げるとともに、各企画を通して積極的に関わるメンバーを増やしていくことを目的に活動を行っている。

4月19日	例会
4月23日	JAFS ウェルカムパーティー実施 (12名)
6月14日	例会
7月26日	例会
7月30日	JAFS ウェルカムパーティー実施 (15名)
10月18日	例会
10月22日	JAFS ウェルカムパーティー実施 (13名)

12月15日	例会
1月24日	例会
1月28日	JAFS ウェルカムパーティー実施 (13名)
3月27日	例会

(24) チャリティーバザー支援会

物品販売を通じて JAFS の運営資金を継続的かつ安定的に確保していくことを目的とする。あわせて本会の活動を広く一般市民に伝えていくことを目指す。

< 四天王寺でのバザー出店 >

実施日: 4/21、5/21、6/21、7/21、8/21、10/21、11/21、12/21、1/21、2/21

場 所: 四天王寺

(25) 広報活動支援会

本支援会は JAFS 広報活動を支援し、主として会員以外の各層への浸透を積極的に行って、イベント・催しへの参加を募り、JAFS 支援者を開拓して、JAFS の輪を広げることを目的としている。

< 第1回広報企画委員連絡会(仮称) 開催 6月4日 >

< 大阪市内の公共施設を中心に案内配布 - 通年 >

- ・ 大阪市立生涯学習センター(5カ所)
- ・ クレオ中央(天王寺)
- ・ いきいきエイジングセンター
- ・ PiaNPO(天保山)
- ・ ボランティア情報センター(天王寺)
- ・ ボランティア協会(福島)
- ・ 社会福祉指導センター
- ・ 環境館(天満橋)
- ・ 大阪国際交流センター
- ・ 西区民センター
- ・ 子ども文化センター(西区) 他

< うずしおフェスティバル 2011(南淡路市) 10/30 >

- ・ アジアちびっこ絵画展と JAFS 活動紹介

< JAFS 広報ファイル差替え分政策 配布 >

5. 関連市民活動

(1) 関西ナショナル・トラスト協会

(代表 沖田文明)

1、事業期間 2011年4月1日～2012年3月31日

2、事業の成果

本年度は東日本大震災が勃発し、その影響で4月の筍狩りも中止し、何か日本中が自粛モードに陥りました。しかし、ここで自粛してはだめだと思い直して、その後の事業は粛々と実行していきました。

本年度も美山楽舎を活動の拠点としながら他にも展開を目指しました。

5月は第13回通常総会開催。

5月末には京都伝統野菜植え付けをしました。

普及啓発事業

今年は京カボチャ、鹿ヶ谷カボチャ、満願寺唐辛子などです。

6月初旬に赤花山芍薬見学会を行う予定でしたが豪雨のため中止しました。

末には黒豆の種まきと虫見学会を行い、特に虫は乱舞するどころか体にまとわり、とまりついて点滅する様です。このようなことは皆初めてで感動モノでした。

7月には夏の交流会と夏野菜の収穫、および草取り、去年植えたブルーベリーは実をつけて少しずつ試食しました。

9月は黒豆の草取りと支柱立てに一泊で美山楽舎にいきました。

10月中頃に台風12号で大被害を受けた新宮市、熊野川町に行きボランティアとよみがえれ森を視察、森の木の生長を見てきました。

水都大阪フェスに出展し、今回は湖西高島市針江の水、京都伏見の水、大阪市水道水「ほんまもん」の飲み比べをしていただきました。地域により水の味は変わると言うことを体験してもらい、お酒の試飲もしていただきました。

11月は第三回目の太子町王陵の谷スタディツアーを行い、二上山に登り古代の石窟寺院を見学しました。

12月は冬野菜収穫と地元交流会開催、地元からの参加者も増えて文化交流は盛んになってきました。

2月は1300年以上も続く伝統行事、奈良の二月堂のお水取りの竹送りに参加しました。

その他にも2ヶ月に一回土佐堀クリーン作戦を実施、KANTA通信も適宜発行いたしました。

以上で23年度の報告です。

(2) グリーンベイ OSAKA

(代表 萩尾千里)

堺第7-3区の埋め立て地の緑化を目的として、2008年6月に発足。植林目標20,000平方メートルの内、2,500平方メートルに植林を行い、その草刈りなどの維持管理を行っている。

本年度は、国際グリーンスカウトと協力をして、自然観察会を開いた。

<活動日>

5月29日 森を育てる会(草刈り) (大雨により中止)

11月27日 第5回グリーンベイ植樹会(120名参加)

自然観察会

<植林本数> 840本

(3) 日本を良くする会 (Make Japan)

(代表 萩尾千里、大阪代表幹事 橋口高明)

本会の国際協力フィードバック事業の一環として、本会会員有志が主催する市民の会。活動目的は、「世界から尊敬かつ信頼される国(社会づくり)」。日本の望ましい社会像、あるべき人間像を求めて、以下の諸活動に参加する創造的の市民の会を目指している。

2006年12月発足

<大阪グループ会員 212名>

<フォーラム活動(会員議会/政策提言)>

1. 奉仕活動(各種ボランティア活動へ参画)
2. 自己啓発活動(自己研修・鍛錬など)
3. 健康増進活動

<2011年度定例会>

6月 第34回 無縁社会を考える!(11名)

7月 第35回 無縁社会を問う!(7名)

- 熊取町会場 -

9月 第36回 これからの日本をは どうなる

~ 戦前の日本は悪いことばかりやったのか! ~

(23名) - 京都会場 -

11月 第37回 日本国憲法 論談 Part 1 (14名)

12月 第38回 日本国憲法 論談 Part 2 (12名)

2012年1月 第39回 天皇について その1 (18名)

- ホテル コンソルト会場 -

3月 第40回 天皇について その2 (名)

(3) その他協力団体

関西国際交流団体協議会

加盟し、理事として協議会に協力活動を行っている。

(特活)関西NGO協議会

加盟し、監事として協力活動を行っている

財団法人自治体国際化協会

アドバイザー(事務局長)として協力活動を行っている

財団法人大阪府国際交流財団

評議員(事務局長)として協力活動を行っている

関西国際交流ボランティアネットワーク会議(KIV-NET)

加盟し、運営委員として協力活動を行っている。

国際協力NGOセンター(JANIC)

正会員として加盟し、協力活動を行っている。

ジャパン・プラットフォーム(JPF)

NGO ユニット参加団体として加盟し、緊急支援時の協力関係を持っている。

ネパールNGOネットワーク(4N)

加盟し、協力活動を行っている。

国際フォーラム

地域で活動する民間団体の連携組織に構成団体として加盟。1983年より国際交流の担い手である市民一人一人の意識を啓発し、幅広く実りのある国際交流の促進の活動を行う。

- B . 環境保全・環境教育（国際グリーンスカウト活動）

（１）土と水と緑の学校

次世代の子どもたちが、地球の基本である土、水、緑の自然の大切さ・役割を体で感じ取って学ぶ自然環境教育プログラム。山と川と海に囲まれた和歌山県新宮市高田で、子どもたちがリーダーと共に各寺子屋を5泊6日で巡り、自然体験をした。

期 間： 2011年8月8日(月)～8月13日(土)(5泊6日)

場 所： 和歌山県新宮市高田地区

参加者数： 総計 155名

(内訳) 参加者 79名

(大阪側35名、新宮側44名(名取市より参加6名を含む))

ジュニア リーダー 4名

リーダー 13名

講師 7名

本部ボランティア・関係者・スタッフ 52名

内 容：

・開校式、つどいの夜

・授業と体験

土の寺子屋

栄養度の高い扶養土を山から取り、その中に住む昆虫やその他の生き物の観察や色や匂いなど色々な面から土について学習した。

また、テントでの宿泊を体験し、釜戸での火起こしやエコ自炊やドラム缶風呂を体験した。

水の寺子屋

水の大切さをその中に住む生物の観察を通して学んだ。何十種類にも及ぶ川の生き物を採集し、それらの特性、特徴などを観察した。

また、カヌー体験で川の流れを知り、川で泳ぐ体験により全身で水を感じた。

緑の寺子屋

緑の働きや人々とのかわりを歩いて知った。日本の滝百選に選ばれている桑の木の滝までハイキングをし、道中にある草木や熊野地方特有の植物に触れ、緑の役割を学んだ。

海の寺子屋

海に生きる多様な生物を採集し、生態を観察した。海での磯観察では多種多様な生物に触れた。

また、船でホエール・ウォッチングに出かけ、くじらの生態を学び、地域での取り組みについて考えた。

心の寺子屋

スライドや写真を通じて、世界の自然やアジアの国々の生活の様子に思いを馳せた。自分たちと同世代の子どもたちの生活や、アジアにおける水不足の現状、食糧事情、環境を視覚を通して学んだ。

・キャンプファイアー

・成果発表、閉校式

主 催： (社)アジア協会アジア友の会
和歌山県新宮市

(財)新熊野体験研修協会

後 援： 大阪府教育委員会

大阪市教育委員会

和歌山県教育委員会

新宮市教育委員会

(社福)朝日新聞厚生文化事業団

(社福)産経新聞厚生文化事業団

(社福)読売光と愛の事業団大阪支部

(財)毎日新聞大阪社会事業団

（２）各部会活動

国際グリーンスカウト運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全活動」を目指す本会提唱のプログラムである。AFSの海外ネットワーク(インド、カンボジア、スリランカ、フィリピン、ネパール、タイ)を通じて国際的に展開している。国内でも、このモットーに基づき、各地でグリーンスカウト隊が活動を行なっている(大阪、吹田、寝屋川・枚方)。

国際グリーンスカウト大阪

(代表:山竹継男)

・ミーティング : 祝日を除く毎週水曜日 19:00～20:30 及び土曜日

・活動内容 : 「エコキャンプ」などを通じた青少年環境教育活動及び海外支援活動

・今後の活動

<青少年環境教育活動(エコキャンプ)>

1泊2日のエコキャンプでは、以下のプログラムを通じて、小学3年生～高校3年生を対象とした環境教育を行っている。

エコ買い物: エコバックや容器などを利用し、国産の商品を買うなど環境にやさしい買い物を行う。

エコ自炊: 少ない薪での調理や、ゴミの少ない調理方法を実習を通じて学ぶ。

検定: 一人で薪に火を点けられるようになるための「かまど検定」や箕面の植物に詳しくなるための「みどり検定」などを行い、楽しく知識や技術を習得できるプログラムを実施している。

その他: 竹のクラフト(お箸づくりなど)や森のハイキングなどを行い、自然や仲間の大切さを体験を通して学ぶ。

<国際協力活動>

今年度は東日本大震災や土と水と緑の学校の開催地である和歌山県新宮市における台風12号豪雨災害支援のための募金活動を行った。

・活動スケジュール

・4月 筍満喫ツアー-(東日本大震災のため中止)

普及啓発事業

- ・4月 青空キャンプ(リーダー募集キャンプ、吹田:日帰り)
 - ・6月 土と水と緑の学校リーダー研修開始
 - ・8月 土と水と緑の学校(略称:土水、5泊6日)
 - ・9月 台風12号豪雨災害に伴う被災地支援活動(延べ9日間)
 - ・10月 秋のエコキャンプ(大東1泊2日)
 - ・12月 土水クリスマス会 in 大阪(日帰り)
土水クリスマス会 in 新宮(日帰り)
 - ・2月 ジュニア研修キャンプ(1泊2日)
 - ・3月 春のエコキャンプ(箕面、1泊2日)
- (6~8月は土と水と緑の学校の企画、下見、本番に参加)

国際グリーンスカウト吹田

(主なメンバー:長島徹、杉原貴、雨森清忠、大山美智子、服部博、濱野和也、越智久美子)

地球規模で環境保全を考え、そのために自分たちの住む地域で出来ることをやっというグリーンスカウトの理念を実現するために、2001年に京都府美山町で行われたグリーンスカウトの国際大会で知り合ったメンバー同志で活動チームを結成。環境保全活動およびその教育の持続と実行のため、2003年より毎月第1土曜日に吹田市の糸田川の清掃を行っている。2003年より、毎年7月には子どもたちを連れて無人島でキャンプを行っている。糸田川清掃の日は定例会を併せて行い、次のイベントの企画を練る。定例会終了後は、懇親会を行なう。継続するためのコツとして「きちんとした活動とともに楽しむことも忘れずに」がモットー。2-3日のキャンプだけで、すぐに環境に対する意識が変わっていくとは思わないが、普段の生活の中で、ふと環境について思い起こしたり、自然保護について、家族で話し合ったりするキッカケになればと、期待して活動をしている。2012年も引き続き、月一回の川清掃、夏のキャンプ、年数回吹田市内でキャンプを行う。ホームページも開設。

http://www.geocities.jp/greenscout_suita1/sp/index.html

<糸田川清掃→環境保全活動>

毎月一回、第一土曜日に30分ほど実施。

参加人数は平均6~8人。

実施日:4月2日、5月7日、6月4日、8月6日、9月3日、10月1日、11月5日、12月3日、1月14日、2月4日、3月3日

<無人島キャンプ(ぐわすと探検隊)→環境保全の啓蒙>

6月18~19日 事前キャンプ

於:吹田市自然体験交流センター

7月16~18日 本番

於:瀬戸内海の無人島「友が島」

12月3~4日 クリスマスキャンプ

於:吹田市自然体験交流センター

3月3~4日 春のキャンプ

於:吹田市自然体験交流センター

その他、不定期にバザーを行い、収益を運営に充てている。

国際グリーンスカウト寝屋川・枚方

2006年11月に結成。今年度は第2エリア植林活動「北河内緑と

ふれあう会」に参加。行動を同じくした。

7月9日 御殿山神社紫陽花植樹会参加

10月29日 収穫祭参加

緑とふれあう会のメンバーとして、「みどりとふれあう農園」の作業及び実行委員会に参加。

(3)ウォーカーソン

1999年の本会20周年を記念し、地球環境保全活動の一環として始まった「地球の水と緑を守ろう!ウォーカーソン」も今年で13年目を迎える。また、アジア各国では青少年を中心としてグリーンスカウト運動を活発に行っており、この運動の一環としてウォーカーソンも行っている。

今年度も「生命の水」をテーマに、「地球の水と緑を守ろう!ウォーカーソン・2011(International Water & Green Day Campaign・2010)」を開催。地球環境保全の大切さや地元を歩くことで出来る国際協力ということ、広く一般市民の方にも告知し参加を求めた。参加費や寄付はアジア各国の井戸建設に使われる。

開催場所:4ヶ所

参加人数:49名(心のウォーカーソンを含む)

[木津川市/第7エリア]2011年10月29日 参加者10名

『柿狩りウォーカーソン in 奈良』

JR木津駅→鹿背山→柿園→木津駅

[姫路/第6エリア]2011年11月12日 参加者12名

『印旛街道、宿場町探訪—平福』

JR相生行き乗車~JR上郡駅~智頭急行平福

宿場町・平福を巡る平福の町並み・金倉橋・宮本武蔵初決闘の場・陣屋門・代官所跡・道の駅平福(昼)・平福郷土館・旧田住邸・本陣跡智頭急行平福~JR姫路駅

[吉野/第7エリア]2011年11月26日 参加者9名

吉野に行こう!

~清流と記紀・万葉、吉野杉の匠をたずねて~

(午前第一部)清流と記紀万葉コース

宮滝(吉野川) 吉野歴史資料館 宮滝醤油蔵

宮滝・象の川を遡る 桜木神社(紅葉真っ盛り)

宮滝の奇岩・景勝

昼食 (河川交流センター)

(午後第二部)吉野上市の町並み散策・吉野杉の匠コース

12:44 「宮滝」発(上市駅行きバス)乗車

やたがらす酒蔵 見学 上市の歴史的町並み「吉野葛」

製材所の町並み 吉野杉樽づくり見学

15:36 近鉄 吉野神宮駅 発→帰宅

[奈良/第7エリア]2011年2月11日 参加者18名

『竹送りウォーカーソン in 奈良』

奈良坂→転害門→奈良県庁前→氷室神社→東大寺南大門→大仏殿前→二月堂

[箕面/第1エリア]2012年3月31日 降雨のため延期

箕面駅~箕面の滝

(4) クリーンUP

【肥後橋・土佐堀クリーンup作戦】

「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」の実践として身近な環境問題に取り組むため、JAFS 事務局周辺(肥後橋・土佐堀)のゴミ拾いを2007年4月より始めた。実行委員会を編成し、また当日の担当として JAFS ファミリーグループ及び地区が役割を担い、偶数月の第2土曜日に実施した。

「まちも ころも クリーンアップ!」をキャッチフレーズに、肥後橋周辺の商店や事業所にも呼びかけ、参加・協力の輪をひろげることをめざしていく。

実施回数: 6回
参加者数: 71名

- 4月9日 クリーン up 作戦 参加者:11名
(担当:クリーン up 実行委員会)
- 6月11日 クリーン up 作戦 参加者:8名
(担当:クリーン up 実行委員会)
- 8月6日 クリーン up 作戦 参加者:4名
(担当:KANTA(関西ナショナルトラスト協会))
- 10月8日 クリーン up 作戦 参加者:20名
(担当:クリーン up 実行委員会)
- 12月10日 クリーン up 作戦 参加者:18名
(担当:ダーナーズクラブ)
- 2月25日 クリーン up 作戦 参加者:3名
(担当:クリーン up 実行委員会)



土と水と緑の学校(参加者全員)



土と水と緑の学校(ホエールウォッチングにて)



土と水と緑の学校(ドラム缶風呂)



横浜ウォーカソンにて

普及啓発事業



JAFS チャリティーバザー (JR 住道駅にて)



中山寺バザー (ヨーヨーで賑わっているところ)



東京多摩地区会にて (震災支援活動の展示)



緑とふれあう会農園作業の様子



JAFS 第六エリアの新年会にて



第一エリア新年会にて

・普及啓発事業



京都地区・東日本大震災・タイ洪水支援
チャリティーコンサート



高槻アート博 2011 にて展示された
歌津の人たちが描いた絵画(うたつのタカラ)



スリランカ事業支援のためのチャリティーコンサート



東日本大震災(獅子舞保存の会に太鼓の支援)



後記全体地区世話人会(ディスカッションの様子)



冬の生活物資を仮設住居へ配布しているところ